

明治二十一年二月十一日 紀元節祝賀會

去月十一日午後三時ヨリ森文部大臣ノ催ニテ虎ノ門内工科大學講堂ニ於テ紀元節ノ祝賀會ヲ開キシガ其會場ノ正面ニハ我日章ノ國旗ヲ掲ゲ其前面ト兩側ニハ各條約國等ノ旗章ヲ列ネタリ。開會ノ始メニ當リ東京音樂學校ノ人人ハ教師ソブレ一氏ノ指揮ニテ歐洲管絃樂一曲ヲ奏シ、次ニ重野安禪君ハ神武天皇ノ文武ノ功德偉大ニ在ラセラレタルコトノ事蹟ヲ擧ゲ、且此祝賀節ノ我國民ニ大切ナルコトヲ述ベ、伊澤修二君ハ萬世一系ノ天子ヲ奉戴スル我大日本帝國ノ皇基ヲ定メ給ヒシ神武天皇ノ御即位ヲ賀スル爲メ我等數千年後ノ今日ニ生レ獨リ我帝國ノ臣民ノミナラズ廣ク諸外國ノ貴賓ト共ニ此堂ノ中ニ會シ此佳辰ヲ祝スルハ誠ニ有リ難キ事ナラズヤ、サレバ皆起テ紀元節ノ歌ヲ唱ヒ神武天皇ノ御德ヲ頌シ奉ルベシトノ意ヲ述ベ、主客一同皆起立シ歐洲管絃樂ニ和シテ紀元節ノ歌ヲ唱ヒ、次ニ今上天皇ノ聖壽萬歲ヲ祝スル爲メ再ビ一同起立シテ君が代ノ曲ヲ唱ヒ、是ニテ祝賀式ハ終リヲ告ゲ、其後猶餘興ニ歐洲管絃樂三曲、唱歌一曲ヲ演シ來賓ニハ茶菓ノ饗應アリテ午後五時頃一同退散セリ。此日招ギニ應ジテ來會セシ朝野ノ貴賓無慮五六百名ニシテ明宮殿下ニモ御來臨遊バサレ大臣勅任官、貴夫人、各國公使等モ數多其中ニ見受ケタリ。

〔大日本教育會雜誌〕第七十三号、明治二十一年三月、二二〇～二二二頁〕

明治二十一年三月十七日 音樂小演習會

三月十七日音樂小演習會ヲ開ク

〔東京音樂學校學事年報 処務提要〕明治二十一年

明治二十一年七月七日 卒業式（取調掛）

〔前略〕七月七日の七夕祭りの午後二時から上野公園の華族會館で、東京音樂學校と改構されて最初の演奏會が開かれた時、歐洲絃樂としてハイドンの交響曲（どの曲か不明）とケラ・ベラの序曲が演奏された。管が加はらない不具な形ではあつたが、兎に角今の官立東京音樂學校第一回の卒業演奏會に絃樂合奏であつたにせよ、ハイドンの交響曲が曲りなりに演奏されてゐることは興味ある事實として特記して置きたい。

〔音樂評論〕第十卷第二号、昭和十六年二月、五五頁〕

〔注〕『音樂雜誌』（第一号、明治二十三年九月、二五頁）によれば演奏曲數は十二曲であつた。

明治二十二年六月二十四日 同好會發會式

〔前略〕

先ず、この同好會雜誌第壹号の第八頁には、「發會式景況概記」と題して次のように記されている。括弧（ ）は大井の記入である。

「明治二十二年六月二十四日、同好會發會を、上野公園（の公園口付近）東四軒寺跡、華族會館に開きたり。

此日、梅雨の余陰を承けて、雨天なりといえども、午後一時、會員集合するもの凡そ七十名余なり。

伊沢會長、開會の旨意に係り、演説あり。

來賓、辻文部次官の祝詞あり。

其の際、演奏の曲目等は、別記、順序書の如し。

凡そ(午後)四時、奏樂を終え、別室に於て、會員及び來賓に茶菓を呈し、懇話(會)を開き、一同歡を尽して散會せしは、午後六時頃なり。

なお此時の演奏会曲目の第一部では、先ず「君は神」(ベートーベン作曲「自然に於ける神の栄光」)と、發会祝歌の唱歌に始まりバイオリンやピアノの演奏、それに独唱と合唱等があつて休憩。

第二部のはじめに、前記伊沢会長の演説と辻次官の祝詞があり、次いで海外御留学直前の幸田延子先生の箏曲演奏。更に瓜生繁子生のウエーバー作曲の「舞踏の勧誘」のピアノ独奏。それに独唱、合唱、ピアノ連弾等があり、最後は、卒業生・在校生による管絃合奏付きの唱歌「ふじ山」(ハイドン作曲「天地創造」の合唱の一節とか)で終っている。(昭和八年研究科修了 大井悌四郎氏記)

(「同声会会報」第三一八号、昭和五十四年八月、一〇頁)

#### 明治二十二年七月六日 卒業式

●東京音楽學校卒業式 東京音楽學校にては、本月六日内外の學者、教育家及教育に關係ある方々を招待して、本科豫科卒業生徒の證書授與式を擧げられたり。弊社よりも社員參會したれば、今式場の順序を掲ぐ。又當日生徒の奏したる唱歌は、別に文藝の欄内に記したれば併せて見るべし。

- 第一 唱歌 (一) 君は神 (二) 歸りゆくとも (三) 燕
- 第二 バイオリン曲
- 第三 獨奏唱歌(わが大君)
- 第四 洋琴曲(クネヒト、リユープリヒト)

第五 二部合唱歌 (一) ゆめ (二) さらばよ故郷

第六 バイオリン曲(ロマンス)

第七 本邦樂 箏曲(薄霞) 洋琴合奏(學友に告別の歌)

(日本ポルカノ曲)

第八 二人連彈洋琴曲(軍人進行曲)

第九 獨奏唱歌(もり歌)

第十 洋琴曲(インビテーション、フホア、ゼ、ワルツ) 瓜生繁子

第十一 伊澤校長演説并卒業證書授與

辻次部次官閣下祝詞

卒業生總代答辭

第十二 唱歌 管絃合奏(ふじの山) 以上

同校が東京音楽學校となりてより、證書授與式は、今回が第一回にして、卒業生技術の如何は、大に同校の信認にも關すべければ、教師も生徒も一層勉勵せられたることなるべし。去れど普通の樂譜をして解し得る記者の耳には、迎も斯る専門の音樂につきて、とやかうと評し得べきにあらず。唯西洋の音樂に比して日本の樂器が不完全なりと云へることは、誰人も異口同音に唱ふる所なれど、日本の音樂には、又自ら特有の長所あるが如しとは、當日の演奏を聴き了りて、頻りに胸裡に起りたる感想なり。去れど當日奏されたる箏曲の如きも、「バイオリン」の妙音を發するに比較しなば、月夜の星光と一般なるべしと雖、之を洋琴に比較しなば如何、誠に反對の音の如くなれど、箏音の妙多きが如し。去れど洋琴また甚だ俗耳をも感ぜしむるに足れる音無きにあらず。次に今回の卒業生が歌はれ

たる唱歌は、何れも文學専門家の作にして、熟讀しなば趣味を覺ふること多かるべし。

〔『教育時論』第一五三号、明治二十二年七月、二七〜二八頁〕

〔前略〕

此の不具な合奏は翌二十二年七月六日同所に於ける第二回卒業演奏會には改められて管絃樂合奏となりはしたが、管が加はつたと云ふのは名だけで、フルート一、第一提琴、第二提琴、ヴィオラ、チェロ、ダブルベース各一人と云ふ六重奏式管絃樂であつたのは今日の整備した東京音樂學校管絃樂部の陣容から考へると全く隔世の感がある。

〔『音樂評論』第十卷第二号、昭和十六年二月、五五頁〕

明治二十二年十一月三日 天長節祝賀音樂會

十一月三日天長節祝賀音樂會ヲ開ク

〔『東京音樂學校一覽』自明治二十三年至明治二十四年、一四頁〕

明治二十二年十二月二十二日 卒業式（師範部）

十二月廿二日師範部生徒八名卒業同日卒業證書假授與式ヲ擧ゲ音樂演奏會ヲ開ク

樂演奏會ヲ開ク

〔『東京音樂學校一覽』自明治二十三年至明治二十四年、一四頁〕

明治二十三年二月十一日 紀元節祝賀音樂會

二十三年二月十一日紀元節祝賀音樂會ヲ開ク

〔『東京音樂學校一覽』自明治二十三年至明治二十四年、一四頁〕

明治二十三年十月十八日 第八回同好會

●第八回同好會 去る十八日午后一時より上野公園地内東京音樂學校内に第八回同好會を開かれたり其の順序は(1)唱歌(美しくしき)(薫にしろく)(豫科生)(2)洋琴(ミニユエツト)シエールホフ氏作橘絲重(3)唱歌(やよ御民)専修部第一年生(4)バイオリン調練習曲ウエツクル氏作變ホ調練習曲スポーア氏作久間わか(5)獨唱迎春シーバー氏作曲鳥居忱作歌瀨川さく(6)風琴(花や紅葉)(雲)高木たけ(7)唱歌本科第二及第三年生(8)洋琴進行曲メンデルソン氏作根岸いそな(9)唱歌秋草本科第一及第二年生(10)バイオリン曲ヤンザ氏作バイオリン専修生(1)唱歌(御稜威の光)本科第二及第三年生等の演奏ありたる由其模様等に關しては最も本紙に特筆大書して其詳細を愛讀諸君に報道べきの處なれども該會には本社監督の四竈氏兼て同會へ入會の申込ありしも奈なる都合ありてや未た何等の回答これなきにより同氏出會せざるを以て遺憾ながら本紙の任を果さざるの歎あれとも讀者の諸君幸に寛恕せられん事を

〔『音樂雜誌』第二号、明治二十三年十月、三二頁〕

明治二十三年十二月二十三日 第九回同好會

●第九回同好會 は去月廿三日午后三時より上野公園内東京音樂學校奏樂室に於て開かれたり其演奏曲目は(1)洋琴聯彈(ソナチン)ウエーベル氏作津田瀧江子太田建子演奏(2)單音唱歌(甲)岩もる水(乙)遊獵豫科生諸氏(3)バイオリン(甲)(ローマンス)ハウセル氏作(乙)(スーベニール、オフ、アルトナ)ロース氏作バイオリン専修二年生諸氏(4)洋琴聯彈(エメロデー)ルイ第十三世作橘絲重子根岸磯菜子演奏(5)獨

唱歌歌(二見か浦)クルシマン氏作曲鳥居忱氏作歌荒井慎子演奏(6)  
洋琴(モンテキ、エ、カプラト歌劇の曲)ツエルニー氏作納所辨二郎  
氏演奏(7)四重音唱歌(浪風)さかゆく御代本科一年及二年生諸氏演  
奏(8)箏曲(石橋)山勢松韻氏遠山甲子子演奏(9)洋琴聯彈(良友)バ  
イエル氏作成川熊雄氏依田辨之助氏演奏(10)獨唱々歌(秋風)シユミ  
ツト氏作曲中村秋香氏作歌岩原愛子演奏(11)バイオリン(アン、エ  
ーア)バハ氏作(12)(アンプロンツ)ハウゼル氏作バイオリン專修  
三年生及選科生諸氏(13)四重音唱歌(14)(歲暮感慨)シユーベルト氏作  
曲中村秋香氏作歌(15)(新年の歌)ハイドン氏作曲加部嚴夫氏作歌(16)  
(開校の歌)フォルクマン氏作曲中村秋香氏作歌卒業生及本科生諸氏  
演奏等にして終りを告げしは東山に半輪の月を戴くの頃にてありし  
(『音樂雜誌』第五号、明治二十四年一月、一七〜一八頁)

### 明治二十四年二月十一日 紀元節祝賀式

●東京音樂學校の紀元節祝賀式 是午前九時半來賓及生徒式場に臨  
み職員及生徒は君が代を謠ひ終て一同御眞影を奉拜し伊澤校長は起  
て敕語を奉讀し終て休憩 同十時半又一同着席バイオリン專修女生  
徒の奏樂デトリヒ氏の合奏次きに伊澤校長は左の演說せりその大意  
は

今日は紀元節の祝日に當り諸君と共に此愛度靄々たる聖世に遭ひ  
て祝歌を奏せしは欣々は堪へず就ては紀元節に因しみて音樂の紀  
元を少しく述へんとす最も本日は衆議院議員島田三郎君の演說せ  
らるゝあるゝ以て余は尤も簡短に之を述へんとす抑も音樂なるも  
の國の文野を問はず何れの國々にも皆あるものなれとも吾日本

の如きは最も遠く古代に在り或る説には吾國樂の創めは神代に於  
て天照大神天の窟に隠れ給へたる時八百万神御神樂を奏し鈿女の  
命が茅纏の稍を持ちて舞ひしに創まるとも傳ふれ恐らくば音樂は  
世界の創めと共に在るは疑ふに足らざるべし古事記にも記す如く  
神武天皇の歌は大概軍歌多く又皇妃を娶る時に用ひたるなり其中  
の卷にある兄猾を討する條の(伊賀)云々は昨年已に詳述せり  
昔神武天皇の代には此日本に尾のある一種の變なる人種八十建あ  
りて忍坂の大室に穴居せり天皇之を征討するに惱ませられ即ち策  
を設けて八十建を饗し八十膳夫をして一人毎に八十建に侍せしめ  
一齊に歌を唱ふと共に一時に此の族を皆捕獲せんことを示し合せ  
て悉く之を捕獲せりといふ云々

次に生徒一同紀元節唱歌を謠ひ次で島田三郎氏の演說(音樂欄  
にあり) 總生徒の皇御國及ひ富士山の唱歌バイオリン及洋琴伴奏次に岩原愛  
子の獨吟天津乙女(歌曲欄にあり)次に根岸磯菜子及デトリヒ氏のマルタ  
歌劇の一部洋琴伴奏にて式終り散會せしは后一時三十分頃にてあり  
し

(『音樂雜誌』第六号、明治二十四年二月、一九〜二〇頁)

### 明治二十四年三月十四日 同好會

●同好會 本月十四日午后二時より上野東京音樂學校内に開かれし  
その演奏曲目は(1)洋琴(トロボドール進行曲)(2)單音唱歌(龐)(岸  
の櫻)(3)風琴(菊)(螢の光)(4)單音唱歌(矢玉は霞)(埴生の宿)  
四重音(母の思ひ)(5)バイオリン(無言歌)(リエンダー古代舞樂)  
(6)唱歌(ガルタケビヤンカルナ)の歌を岩原瀨川荒井の三女史の伊

太利語にて聯唱(7)洋琴(ソナタ)(8)四重音唱歌(松のみゆき)(碧蹄館)(9)箏、バイオリン(箏曲薄霞)(10)唱歌大平の曲を總員にて合唱同會員の紹介によりて傍聽するもの殆んど數百餘名ありたり

〔音樂雜誌〕第七号、明治二十四年三月、一七〜一八頁

### 明治二十四年七月十一日 卒業式

●東京音樂學校卒業式 は十一日の午后三時より同校に於て舉行し臨場者には貴顯紳士淑女外國人等二千餘名滿場寸地なく戶外に直立する者さへ多く先つ其演奏の順序は(一)君か代(二)此時滿場直立(三)ガボット、エト、ミューゼット(インテルメツソ)の二曲橘絲重中村照の二女子洋琴連彈(3)作文二篇(忍ふ所を述ふ)石岡得久子(ハルモニ)英文瀨川朔子(4)螢狩(歌曲欄)にあり本科生洋琴(ソナタ)依田辨之助(6)授業法演習)高木武子此時高木生は來賓に一禮しそれより男女二列の生徒に向へ妾は本校の音樂教師に聘され升た皆さんの中に音樂に熱心なる方は手を上げと命したるに一同手を上げたりそれより鞭にて卓を拍ち又「アー」と一聲唱へ此二種の音がどちらが奇麗な音とお思ひですかと問へは一生立て「アー」と云ふ方が奇麗ですと答へ次に黑板に「アー」の如く書き風琴にて此二音を彈鳴らす其二音を口音に移して之を四五回生徒に練習せしめ又 112|221|と書て其音符に長短あるを示すが爲めに1,1,2-|2,2,1-|と「句豆」と「横線」の區別を授け次に 1,1,2-|2,2,1-|の歌詞を授く此時一生ハルハナミと唱ふ者有誰さんこふ云ふ時はハルハと書てもハル(わ)と讀み升と教ゆ(此時滿場笑聲)等終に「今日は時間か有ませんからこれで止め升」杯と如何にも其辨舌のお喋りなる其舉動の小生意氣な

る風に見へしが聞く處によれば彼こそその着裝の如く赤々しきビラシヤラを好まずして平常温厚端正にして且つ音樂の天才ある評判高き熱心家なりといふ(7)(バイオリン)獨奏岩原愛子(全ミニユエットセント)合奏卒業女生八名は(8)(箏曲春の花)バイオリン合奏幸田幸子井にバイオリン卒業生此時傍聽者の中に白襟の束髪二人云ふ様あのお子方の歌は惜い事には丸て盲人の唱ふ様たがあの様な所を改良して欲しいものですねいと(9)外山文學博士の演説(忘れがたみ)(10)水車洋根岸磯菜(1)校長心得神津專三郎君演説并に卒業證書授與其演説の大意は今日當校第四回の卒業式を舉行せしに文部大臣を始め朝野の貴紳滿場に臨まれ本校の實に満足とする所なり今度卒業する所の専修科師範部并に豫備科何名は本校の教師ヂットリヒ氏が去る二十一年の秋より熱心なる勉強と鍛練とに依りて卒業する所の生徒にして又本校新築以來第一回の卒業なり諸氏實に幸機會に際して此卒業を見るを得たるは單に生徒の幸福のみならず 本校の幸いなり然れども實に其一班に過ぎざれば將來ともに品行益方正勉強益努力して今日の榮譽を發揚されん事を望む云々(12)(メジテーシヨン)卒業生共十五名洋琴風琴伴奏(13)伯爵大木文部大臣祝詞次に卒業生總代岩原愛子謝辭(14)歌(告別)歌曲欄(仰けば尊し)生徒一同風琴福長竹男にて式全く了り食堂に於て來賓に立食の饗應ありて實に盛なる卒業式なりき即ち本日卒業したる其人名左の如し(専修部)岩原愛子、石岡得久子、瀨川朔子、依田辨之助、根岸磯菜子、久間和嘉子、村松秀子、丸山登女子、荒井慎子(師範部)高木武子、福長竹男

〔音樂雜誌〕第十一号、明治二十四年七月、二一〜二三頁

明治二十四年十一月十五日 同好會慈善音樂會

●同好會慈善音樂會 去る十五日午後一時より東京音樂學校に於て同好會諸氏の發起により震災義捐の慈善會を開かれしが聴衆千五百餘名に達し會場錐立つ地だもなく一曲毎に拍子喝采の中に演じ去りぬ同じ好み求とめぬる會まり恵みを盡さん眞心なれば洋琴箏の音聲と諸共に濃尾の人に感ぜしならめ上野の宮に榮へぬる音樂の道ぞめでたし其演奏曲目左の如し

- 第一部(1)唱歌(農民、舊友舊時、海) (2)洋琴(ソナタ) (3)ヴィオリン(無言歌) (4)箏曲三樂合奏(松風) (5)風琴(結尾音) (6)バイオリン(バイオリン獨奏曲) 第二部(7)洋琴(インテルメツソ) (8)箏曲(落梅原曲のまゝ、落梅洋琴バイオリン合奏) (9)唱歌(子を思ふ母、楠公及小楠公) (10)バイオリン(五月の歌) (11)洋琴(ソナタ) (12)箏曲榮ゆる宮(バイオリン合奏) なり

『音樂雜誌』第十四号、明治二十四年十一月、一四頁)

●同好會音樂會の批評 午後一時よりの開會と聞きドンと同時に家出なし好きな道とて奔る一里の長途を四十分にて上野山こはく乍ら切符を請ひ役員諸氏の指揮のまゝ會場へ行く最早や聴衆は充ち満ちて立錐の隙もあらざりし暫くして開會され第一席は生徒諸氏の唱歌(農民、舊友舊時、海) 第二席橋絲重子の洋琴(ソナタ) は御熟練の程感服の至り也第三席卒業生及バイオリン専修生のバイオリンは中々揃へもし精佳くなれどよもや音樂學校は女生のみ卒業せしめしにあらざるべし女生のみバイオリンを彈せしに非ざるべし定めて男生もありつらんが此日は特別に女生のみ採用せられし譯合か別に都合ありしのか是技の妙を感ずると共に男生のなかり(一人あり)しを遺憾になす者第四席三曲合奏(箏曲松風) は風雅人をして肅然仙界に遊ばしめ第五席は島崎氏の獨奏風琴なり第六席は本日の音

樂會を代表する程聴衆をして轉た感雅に堪へざらしむる喝采を博し場中落針の音だもなからしめたるは有名なるヂットリヒ氏のバイオリン獨奏なりき第七席は麻生ふく子氏の洋琴なり第八席は箏曲落梅にして村岡範爲馳氏聴衆に説て曰く此曲は甲乙に彈じ甲は本邦固有原曲の儘にて奏し乙はヂットリヒ氏調和せる者にして箏バイオリン洋琴の合奏なり宜しく其眞味は御聞取の上御比較あれとの一言は此曲に對し一層の感動を與へぬさて仰せに従ひ甲乙の眞味を比較致さんが元來聴衆は否な私が日本律にて育てられたる者故本邦律は氣に入りの法なり是故か知らねど甲の如きは成程雅麗なれども何處となく物足らぬ心地せり乙は一きはの妙味を添ふ蓋し是れバイオリンの合奏ありし故ならんかさり乍ら茲に遺憾なりとなすべき所は箏、バイオリンと同時に彈ぜる洋琴の樂曲は非常に懸隔して別曲の如く聞へたるやの感ありし第九席は生徒諸氏(子を思ふ母楠、及小楠公)の曲にして如何にも愛慕の情と憂憤誠忠とこそ呼喚したれ第十席は五月の歌第十二席は箏曲(榮ゆる宮) バイオリン合奏目出度閉會まづく是は私の下馬評當るや否やあゝ今一つ氣つきし事ぞあるそは女生徒諸氏の服裝なりしが和服の御召は至極結好されど西洋束髮にて和洋混合(合樂器も和洋混交なれど)のおつくりは本邦の優美を損せざるや他の傍聴諸君同好會の先生方どうで御坐りましよう後來の参考にも御許し下されとは牛込邊なる傍聴生より投書の儘

『音樂雜誌』第十四号、明治二十四年十一月、一五〜一六頁)

明治二十五年七月九日 卒業式

●東京音樂學校卒業式 同校に於て去る九日午后三時より卒業證書授與式音樂演奏會を執行せられたる其順序は(1)唱歌薩摩湯洋琴(2)バイオリン曲(ソナタ) 卒業生中島梅雅石坂敏子頼母木駒子(3)洋琴(セレネード) 卒業生成川熊雄(4)唱歌他郷の(5)箏曲四季の友(6)村岡校長演説并に證書授與次に文部大臣代理演説及卒業生總代橋糸重子謝辞(7)

歌唱告別(8)末松文學博士演説(9)バイオリン曲石岡得久子幸田幸子(10)等  
 越後獅子幸田麻生原田内田上原山勢(胡弓)山室(11)洋琴曲甲雅典の荒乙廢より拔萃  
曲乙婚姻 橘、中村、麻生(12)本邦俗間の歌調にヂットリヒ氏の調和編製  
 進行曲 したる甲地づき歌乙琉球ぶし丙めでたぶし(13)卒業式の歌女聲三重音  
 にて洋琴伴奏せしが何れも上出来にて聴衆場外に溢る

〔音楽雑誌〕第二十二号、明治二十五年七月、一四頁)

明治二十五年十一月三日 学友会発會式

◎學友會發會式 東京音樂學校生徒諸氏には此回智徳を増進し相互  
 の交誼を厚ふせんと目的にて生徒自らは正員となり同校職員を客  
 員として學友會なる者を組織し去る三日天長節の佳辰を卜して其發  
 會式を同校奏樂堂に於て開かれたり先づ當日の順序は會員一同着  
 席するや北村委員の報告並に祝辭女子部委員總代頼母木駒子あさか麻生富  
 久子とじやう戸城やす子三浦みほ子香取春子諸嬢の祝文林甚藏じむんざう氏の音樂上に  
 於ける演説東琢氏の歐文祝辭次に村岡會長神津、上原、鳥居三客員  
 の演説男子部の唱歌にて式を了へ晝飯後餘興としては男子部の謠舞  
 兒島高德の事實女子部の建物男子部の手品女子部の讀物男子部の備  
 後三郎ごさぶろうの劍舞、曾我兄弟の謠舞其外福引等にて壯快なる發會を終り  
 一同食堂に會し辨當茶菓の饗應ありたりき

〔音楽雑誌〕第二十六号、明治二十五年十月、三〇頁)

明治二十五年十一月二十七日 学友会演奏会

○東京音樂學校學友會演奏 來る廿七日午後一時より同校奏樂堂  
 に於て舉行する演奏曲目は左の如し

第一 部

- 一、唱歌(單音) ピアノ伴奏  
 甲、領巾ひれかるやま磨嶺(シルヘル氏作曲・鳥居忱氏作歌) 乙、良友を  
 思ふ(シルヘル氏作曲・中村秋香氏作歌)
  - 二、クラリネット(獨奏) ピアノ伴奏  
 クインテット中ラルゲット(モツアート氏作曲・井上京次郎  
 氏演奏)
  - 三、箏曲(バイオリン合奏) 西行(初代山登檢校作)
  - 四、ピアノ曲(獨奏)  
 コンセルト、マツルカ(シャルウエンカ氏作曲・橘令嬢演奏)
  - 五、唱歌(四重音)  
 甲、秋の夜(シワタル氏作曲・佐藤誠實氏作歌) 乙、客舎早  
 發(エンセン氏作曲・佐藤誠實氏作歌)
  - 六、バイオリン曲(ピアノ合奏)  
 甲、ガボット・乙、ウオルツ(シット氏作曲)
- 第二 部
- 一、オルガン(二人連奏)  
 甲、喪式進行曲(シヨパン氏作曲) 乙、進行曲(シユューベル  
 ト氏作曲・島崎・石原氏演奏)
  - 二、バイオリン曲(二人連奏) ピアノ伴奏  
 ワグネル氏タンホイゼル歌劇の幻想(ワグネル、ヤンザー氏  
 作曲)
  - 三、唱歌(四重音) ピアノ伴奏  
 甲、山中幽閑(ベニケ氏作曲・黒川眞頼氏作歌) 乙、薩摩潟

(シチューマン氏作曲・鳥居忱氏作歌)

四、箏曲 松盡(松島檢校作曲・東京音樂學校作歌)

五、ピアノ曲(三人連彈)

甲、シンホニー中アンダンテ(ハイドン氏作曲)乙、トルコ

國進行曲(モツアート氏作曲・橘、中村、麻生令嬢演奏)

六、バイオリン曲(ピアノ合奏)

シチリアノ(ヘンデル、ヘルムスベルグ氏作曲)

七、唱歌(四重音)バイオリン、セロ、クラリネット、オルガン、

ピアノ合奏)

奉迎の歌(ラスース、クレムゼル氏作曲・黒川眞頼氏作歌)

(『讀賣新聞』明治二十五年十一月二十五日)

●學友會演奏會 前號に報ぜし如く同會は去廿七日午後一時半より東京音樂學校奏樂堂に於て開かれたり演技者は専門家のみなれば撰曲も手術も能く其當を得たるか如く扱第一席は領巾廳・良友を思ふの二唱歌次にクラリネットピアノ伴奏は或は近く或は遠く其抑揚宜しきを得特に有名の曲なれば外國人を喜はせたるのみならず耳新らしく聞かれたり山勢、麻生、橘、諸令嬢の箏曲西行は織手絃上に揃ふて誦り傍聽婦人の歡心を得たり次に秋の夜の唱歌は充分悲哀の情を含み客舎早發の唱歌は四重音の活劇にして喝采を得たり次にヴワイオリン曲ガボット等は麗且つ妙と云ふへく喝采の拍手は暫しも止まずしてデ氏再び出て禮謝せり暫時休憩一番目はオルガンにて喪式進行曲及進行曲を奏せり次はヴワイオリン曲タンホイゼル歌劇の幻想は非常に情緒を動かし滿堂肅として聲なく外國人の如きは身を躍らしつゝ再奏を促したる程なり次は山中幽閑、薩摩湯次は山勢松韻、遠山甲子子其他數名の箏曲松盡くしなりしか滿場の大請にて拍手の音に心強きを得たり只惜むらくは其改作歌詞の摺物なきを恨む者多きか如くに見へたり

次はヴワイオリン曲甲乙二曲而して尤終曲奉迎の歌てふ唱歌は總樂器の伴奏にて正會員殘らず唱歌せし事なれば聽衆の喜色滿面に表はれて大喝采と共に其散會を告げ特別券携帶者には茶菓を呈されたり當會の特に注意されたる如く見受しは風琴の踏盤を踏む足の見えて不体裁なるを恐れ化粧房にて隠されたと經濟的大盆栽を飾り活花に代用せられたると又窓の開閉に注意して炭酸氣を洩らされし等は感心々々

左の一篇は音樂學校に於ける學友會演奏會を横濱メーラ記者が批評せしもの今元橋義敦氏より送られたれば茲に掲ぐ

去る廿七日午後の事とよ、さしにも廣き音樂學校講堂は、音樂の演奏きかんとて、そこかしこより集ひたるさまにて、所せまきてみたされぬ、また此人々の喝采せる聲の頻りなるにて、奏さるゝ方々の妙技はしれぬ程にてありし、さて此演奏會は東京音樂學校長岡村氏及同校教師デットリヒ氏の監督にて、東京音樂學校學友會の人々の催されしまといなりとぞ、曲目の數には何れもよきものゝみ撰まれしには、何れをよしと云はんことはかたき業なりや、されどそが中にも殊に覺へしは二の部第二の曲なりき、こはピアノの役を教師デットリヒ氏とられて、ヴァイオリン、を二人のうら若き貴女のなされたるなりき、この曲のヴワイオリンは是までに此校の人のなされたるよりもまさりて、容易からぬ曲なりしかども、此貴女達のよく心を用ひ、妙に奏でられしにぞ喝采の聲四方に起るもめでたし、かく此貴女達の此技藝進まれしは、我等たゞおとろくといはんより他の言の葉もなし、此日此處に集ひたるは、多く日本の人々にてありき、此人には箏こそ一にかぞへらるゝ價値ありとおぼゆれ、曲目の終りの曲はすぐれてうるはしきものと覺ゆ、されば此日演せられたる人々もさなりといひはやしぬ、此曲は三百五十年前に作られしものなれば、あはれ後の世に残りしも、故ある事ならんと思はる、我等は此廿七日の午後をおもしろく樂しく、暮したるかたじけなきを、校長岡村氏教師デットリヒ氏、ならびに此學友會のかたじけなきを、また我等は此日のまといかともよく、何れもくなされたるを悦びあへるにとぞ、末に云ふ我等この日ためしたるによりて、此講堂の空氣流通のあまりに宜しからぬを、何にか改められ



ENTRANCE TICKET.  
TO THE  
SAKUYŪ KAI CONCERT,  
OF THE  
TOKYO ACADEMY OF MUSIC,  
Held in its Music Hall,  
UYENO PARK, TOKYO

---

Halfpast I P. M. Sunday  
No. 27 th Meiji 25 th (1892)

明治二十五年十一月二十七日午後一時半  
上野公園東京音樂學校奏樂堂ニ於テ開會  
會費金 拾錢  
東京音樂學校學友會音樂會入場券 壹人限  
一着服ハ洋服又ハ羽織、袴タルベシ

ん事を校長村岡氏にいたくのぞむにこそ、

『音樂雜誌』第二十五号、明治二十五年十二月、二二〇〜二四頁

明治二十六年二月十一日 学友会演奏会

●紀元節の式 東京音樂學校に於ては去る十一日午前十時より奏樂堂に會し滿堂君か代を祝唱して 兩陛下の御眞影を拜禮し次に紀元節の歌勅語奉讀村岡校長の演說憲法發布の唱歌にて式全了る午後一時より同校第二回學友會を開きしに(1)春の夜、大平の曲飯田三三雄氏の風琴獨奏(2)東琢氏の朗讀(3)麻生令嬢の洋琴獨彈(4)囑托教師三輪田眞佐子の至誠といふ演說(5)神津上原田村三氏の演說(6)西川令嬢我か大君の獨唱(7)石原重雄氏の風琴獨奏(8)來賓某氏の平家琵琶那須の與市、木曾義仲の最期等ありて盛會なりし

『音樂雜誌』第二十九号、明治二十六年二月、一七頁

明治二十六年三月十九日 学友会演奏会

●第三回學友會演奏會 去十九日午後一時より東京音樂學校奏樂堂に於て同會を開かる其演奏曲目は第一(唱歌)我が國、愛國歌、第二(バイオリン曲)舞蹈曲、ワリアント、第三(唱歌)戀しき母、二見か浦第四山勢遠山今井上原諸氏の(三曲)櫻狩第五(ピアノ曲)ソナタ麻生令嬢の獨彈第六(唱歌)富士登山の歌、春の夜第七(バイオリン曲)甲(ロ)マンズ乙アダムエツト丙進行曲第二部第一は(唱歌)歌の徳第二島崎、石原兩氏の(風琴曲)甲ソナタ乙タンブラン聯奏第三等、バイオリンにて鏡なす、岸の櫻の和聲的合奏第四(唱歌)雪投、進軍曲第五は(囃子)羽衣、熊坂演者は金春、大和田、

歡世の三氏第六は（ピアノ曲）雨、ミニユエツト橋、中村、麻生三令嬢の連弾第七（バイオリン曲）オルガン、ピアノ伴奏にて甲コシ、ファン、ツート歌劇中のクインテット、乙ミニヨン歌劇中ボヘミア人舞曲丙樂聖セチリアを稱する曲にして

扱て當日の演奏中唱歌にて能く其現象を描きしが如く何處となく神淋て如何にも此處彼處に群をなし又近きより遠きに達せる如きの趣きを現はして聽衆を靜肅ならしめたるは富士登山の一曲なり春の夜は何處やら吾邦人の嗜好に適ひたる曲質を帯びて奥床しかりし次に進軍歌も宜し又ピアノ曲にてソナタは綺麗なり第六なる甲乙宜し鏡なす、岸の櫻は中々進歩せし仕組なれとも樂器の數と人間の頭數との割合をピアノの熟練なる獨彈に比較て聞は忌はしき感を起さざるを得ざるなり羽衣、熊坂の囃子は只我國足利時代のものなるをせしのみにて餘興とならば寧ろ捧腹滑稽の狂言扱は都て適當ならんと事實を知らぬ外國婦人連等は笑を堪ひて身を振はせしも無理ならず特に御氣の毒なるは長い間囃子方が板の間に坐はりて嘸足が痛からふと他處から心配なりしは餘計なお世話兎に角日本の聞きものは第一部第二部の第七なる（バイオリン曲）なり一回一回に著しき進歩を現はし音樂校諸教師平常の盡力と生徒諸氏の勉勵吾邦音樂上の爲に賞するに餘りあり或る傍聽者の評に今此各種の演奏を見聞して觀察を下せば囃子の如きは殆んど金石の如く箏曲は稍植物の如く第七なる合奏は動物たるが如しと云へり

（『音樂雜誌』第三十号、明治二十六年三月、二〇〜二二頁）

左の一編は千八百九十三年三月二十三日發行ジャパン、デーリー、メー

ル新聞に記載せるものなるが寄送なりたれば左に掲ぐ

東京音樂學校學友會の景況

神津專三郎 譯

本會に於ては本月十九日日曜を以て非常に有益なる演奏會を舉行せり此時東京音樂學校生徒諸氏は音樂の諸藝に於て驚くべき進歩の景況を顯はしたり同校奏樂堂に充滿したる聽衆は外國公使を始め外國人の數頗る多きに居れり當日音樂の演奏は各自の生徒が顯はしたる熟練と才能との外に尙種種の箇條に於て感服に堪へざること多かりき抑も日本人の天性と數世代を経たる永き練習を積むに非れば西洋音樂の方法及組織に精通するに適せりや否やとは歐米諸國人の間に成立する多年の疑問なり彼の専ら日耳曼の教師が教練したる或る軍樂隊の驚くべき穎敏を以ても此疑問に就ては充分なる答辨を與ふるものにあらざるべし所謂軍樂隊の使用する樂器の如きは規定の手法に由て音響を生ずるものにて奏者の耳か若くは判斷のみを以て其音調の精確を致すものにあらざるなり立琴、洋琴の如き音調變轉せざるものにて既に音律の整ふたる上は凡庸の頭を以ても其調子の狂はざる樂器の如きに於ては最も然りとす蓋し外國の音樂に必要な技能の有無は絃樂器若くは聲樂を奏するの際に於て最も能く之を檢定するを得べし則ち此の如く論下せば歐洲音階の諸音を整頓する精緻なる音程に就て判明精確なる知識を備ふるに非る以上は専門的演藝の成果を得る能はず實に毫末の差異と雖とも演奏上に不協音を生ずるときは聽衆の有識無識に係らず乍ち之を發見して聞くに堪へざるの感を發せしめたり則ち此の如き差異を避くるの能力は例令天賦にあらざるも頗る習得するに難きものにして日本人か音樂上の資質に於て全く改造を経且つ日本人か音響の價值に係り新思想を發育したる後にあらざれば該能力を完得するを疑ふもの多かりしなり

抑も上述する如き問題は之を一朝一夕に質明するを得ざるものなり而して去る日曜日に於ける演習の結果の如きは好良なる方向に進むの證左と看做すへきに過ぎざるのみ敢て之を確定視するは大に誤れりとす然れ共是まで大に世の疑を受けたる事項も此演奏の爲に之を氷解するに至りしこと尠なからざるは吾人が信じて疑はざる所なり則ち彼の二十名に近き妙齡なる

男女生徒の演奏せるバイオリン曲の如きは此諸氏か最微の誤謬もなく正しき音調を以て高尚の樂曲をも奏し得へき伎倆を證明したるものと云ふべし。演奏會の始より終に至り各曲皆此の如くにして其欠点を擧ぐべきものなし。蓋し音樂家たるものゝ身に取りては此事實に小事に非るなり加ふるに此演奏の精確なることは天賦の性爲の然らしむる所にして敢て器械的の教習にのみ因由せざるは吾人の信じて疑はざるに於ては決して然りとす凡そバイオリンを學ぶには指頭而已を以てし耳の助けを受けざることを得べし然れ共此の如きは實に管製風琴に過ぎざるものなるべし故に又演奏者に於ても眞の専門的快樂を享有せざるべし然れ共此の如き現象は二十名有餘の學生より成る級に於て發起すべくもあらざりき恐くは純然たる器械的の熟練は同數の歐洲學生に於けるよりも更に茲に著明なりとす然れ共又耳力に依頼する所甚僅少なりしは殆ど信ずべからざるものゝ如し去日曜日に於て初に演じたる二名の若き婦人の如きは此點に於て疑を容るへき所なし其演奏の舛裁聽衆の爲に充分の満足と與へ而のみならず聽衆中此道に心得ある者の案外に出でたるものと云ふべし其他男女兩性の演奏者か爲したるバイオリンの演奏は總して皆然るを信するなり其共同合併して演奏したる音樂の成果は愉快にして且一二の曲といひ殊にビゼー氏の製曲に係る緩き拍子のものに於ける如きは最も嚴酷なる批評家も批評すべき欠點を見出すに苦みたり此の如き妙齡なるバイオリン演奏者中に就き獨奏を聞くことを得たらんには又更に妙ならんと信せり此の如く數多合併して演奏するときは各自の發相を見出すこと難し熟ら用號の風裁を按するに各人進歩の度を異にする所以を見るに足れり

聲樂は聽衆中教育のある部分の爲には器樂の或る演奏に於ける如き快樂を感せしめざりしも此大切な課業に於て將來充分の進歩を占むへき徵候は甚だ分明なりバイオリンは此處彼處に於て聊の取除を以て概ね同音に於てのみ聞へたり然れとも唱歌は往々複音に於て唱奏せられ且其性質音樂上穎異なる智能を有せされは精確の演奏を爲し得べからざるが如きものなり彼のバハ氏作の唱歌の一の宏壯なるが如きは之を唱奏する者の必ず充分に理解せざるべからざるを主張するにあらざるも其各部の思想と其相互の關

係とは明かに唱者の心意に入るにあらざる以上は之を唱奏することの全く出來得べからざるを信ぜり彼の「クルシフキサス」の編成法は思想も感情に有せざる音響の繼續したるものとして之を記憶し之を暗誦せんことは事甚だ錯雜にして到底爲し得べからざることなり此の如き難曲を以て聽衆の耳に觸んと企てたるは頗る危險に見えたり然れ共其成果は意外にして唯に毫も批難すべき点なきのみならず猶此日の演奏中尤も著明なる部分を占めたり之に次て演奏の尤も著明なりしはデットリヒ氏の有感有識なる製曲なり殊に製曲家か工夫を凝らして其弱点を掩ふて強点を發揚したる苦辛の手際は演奏曲目中更に熱心なる喝采を博したり此他の唱歌は敢て記述すべき所之なきものなり日本語は何れに於ても能く協合し殊に巧妙なるもの多しとす其聲音流暢にして歐洲の言語は云ふに及はず以太利語と雖も遙かに及ばざる如き形勢を致すのみならず猶唱者をして自ら言語の意義を領會するの快樂を享けしむるに至れり是れ其唱奏上に充分の發相を與へて餘力を遺さざるは又疑ふべからざる事實なり然れ共今其程度の實際如何なる點に達し居れりやは其博達ある教師先生の如き平日熟知する者の外は之を明言する能はざるべし此の如き詳細の條に至ては實に先生の証明に依頼するの外あらざるなり敢て偶々聽聞するものゝ説の信するに足らざるなり實際唱歌に於て發相の程度は唱者よりは寧ろ導者の伎倆に屬せりと云ふべし唱者は恰も導者の使用する器械の如くにして唱歌の光彩も陰影も唱者の集合意匠によるよりも導者の指揮抑揚に屬せりと謂ふべし

演奏中數々日本の樂曲を交へたるは大に興味を添へたり此日本風のものに就ては茲に一言を吐露するの限にあらざるなり然れ共此中には和洋協會のものもあり此等に就ては聊か陳述すべき所あり即ちバイオリンと箏と合奏したるは二曲あり其一是彼の日本有名樂家なる芝葛鎮氏の作曲にて此等に伴奏せる箏調は箏數面を以てせるものにてデットリヒ氏の編成したるものと信ぜり此演奏の情趣向とも云ふべきは箏調を以て箏の固有の長所を表はさしめずして歐洲樂器の立琴の用を辨せしめたること蓋し箏は實際小形の立琴に過ぎず樂器の形狀は固より論ずるの外なりと雖も此樂器の製法は全く立琴の理に協へるものにて其音調まで類似せり唯其絃數少

なるのみ日本人が之を以て日本の樂曲を奏するには日本音階の五音のみを生じ只之を反覆すべき様に調律すると云へり然れ共また之を歐州音階に符號せしむべき様調律することをも得べきものにて此時は第一面のみにて數多の音を發生するに不適當なる點は筆の數を増して合奏する時は自由自在なりと云へり即ち去日曜日にも此の如くにして演奏せるものゝ如し然れ共舞臺より隔りたる場所に席を占むるものゝ爲には其詳細を知るに由なかりき尤も全体の結果は甚た巧妙なりと信せり然れ共筆は元と廣く場所をとるものにて之を容るゝに十分なる廣地位あるにあらざれば連筆合奏の舉は殆ど難しとす然れ共廣き位地あるに於ては甚た妙手段なりとす唯に然るのみならず日本には尙他に種々なる雅樂的の樂器もあるれば更に之を連合せしむることを得べくして去日曜日の場合に於けるよりも更に之を大仕掛けとなす事をも得べきなり然れ共彼の雅樂的の該樂器は箏と協和すべき音質のものに非ずされば之を協和連奏すること頗る難かるべし箏は日本純粹の樂器にして更に改良上進を經へしと雖も惜哉之を十分進むるも其位地は既に吾歐州の立琴の爲めに占られたりと謂ふべきなり

演奏曲中數々洋琴をも聴くを得たり抑も洋琴はバイオリンに比すれば無論日本人の爲には容易なるべき樂器なるは人の自然に信する所なりと雖も大に之に反して日本人に洋琴の更に難きものゝ如く見えたりと謂はざるを得ず且つモザート氏の合奏曲の一より抄出せる有名のミニユイットの拍子の如きは兼て聞き傳へたるものよりは遙に緩徐なりしを覺へたり是れ正しく近來の風習に符號するものなるべし此風習に於ては古來の快樂なる音樂も往々其勢を變じ元來の特質を失ふに至るもあり去る日曜日のミニユイットに於ては快捷なる舞の踏活氣を吐く所更に之なし

〔音樂雜誌〕第三十一号、明治二十六年四月、一〜四頁

### 明治二十六年六月十一日 学友会練習會

●奏樂演習（東京音樂學校學友會男子部） 明十一日午後一時半より

上野公園地東京音樂學校奏樂堂に於いて開會する演習曲目は「第

一部」一、唱歌單音（洋琴伴奏）破邪曲會員山田美妙齋氏作歌。二、洋琴連彈（洋琴伴奏）納維也マーチ元橋義敦氏、前田久八氏、ツエルニー氏作曲。三、ヴワイオリン、ヴキクトル中練習曲戸田忠義氏、高濱孝一氏。四、唱歌四重音（洋琴伴奏）「甲」大塔宮「乙」唱歌會員、黒川眞頼、佐藤誠實兩氏作歌。五、三曲西行櫻山勢氏、萩岡氏、今井氏、上原氏。六、風琴連奏「甲」キュージャス、アニマン「乙」パストレル飯田三三雄氏、關根琢氏。七、クラリネット（風琴バイオリン合奏）ラスト、ロース、オブサンマー井上京次郎氏、北村季晴氏。八、唱歌四重音（洋琴風琴伴奏）皇國の精神會員、旗野十一郎氏作歌「第二部」一、風琴「甲」イスラエル歌劇より拔萃朝禮「乙」オルガンソナタ、ヨリ拔萃アリア石原重雄氏、メーヒル氏、モザート兩氏作曲。二、ヴワイオリン獨奏（洋琴伴奏）アルバムブラット高濱孝一氏、ルース氏作歌。三、吾師の賜獨唱二部（洋琴伴奏）北村季晴氏、島崎赤太郎氏、鳥居忱氏作歌。四、洋琴ディーネルケ クルীগ氏作曲、元橋義敦氏。五、尺八鹿の遠音荒井古章氏、上原六四郎氏。六、風琴「甲」フーグ「乙」アダジヲ島崎赤太郎氏、バハ氏、メンデルソン兩氏作曲。七、肥後琵琶小敦盛三段目堀野勝太郎氏。八、唱歌（洋琴伴奏）「甲」去卒打タナ「乙」告別會員一同、旗野十一郎氏、佐藤誠實兩氏作歌。

〔國民新聞〕明治二十六年六月十日

●學友會演奏會 東京音樂學校學友會男子部の練習會は去六月十一日午後一時半より同校奏樂堂に於て開會されたり聴衆はいつもより少く其演奏番組は「中略」等にて無事閉會を告げしが中に肥後琵琶は未だ聴き馴れざる

爲やら良評を下し難し

『音楽雑誌』第三十三号、明治二十六年六月、一九頁

明治二十六年七月八日 卒業式

○東京音楽學校生徒卒業式順序 前號の紙上に記したる同校卒業式の順序は左の如し

第一 唱歌 (洋琴伴奏)

甲 聖代の光…… {シウベルト氏作曲  
中村秋香氏作歌

乙 卒業式の歌…… {シウベルト氏作曲  
本居豊穎氏作歌  
卒業生其他諸氏

第二 風琴曲 (二人連奏)

ソナタ第二部…卒業生…… {島崎赤重  
石原重太郎  
モツアト、ヤンザ氏作曲

第三 バイオリン曲 (洋琴伴奏)

ドンジュアン歌劇幻想…… {石岡得久  
幸田幸子  
ヘルレル氏作曲

第四 洋琴 (獨彈)

タランテラ…… 遠山甲子子

第五 箏曲 (バイオリン合奏)

須磨…… {卒業生  
戸田木駒  
頼母忠義  
其他諸氏

第六 唱歌

甲 夏の夜…… {デットリヒ氏作曲  
黒川眞頼氏作歌

乙 潯陽江……

{シウマン氏作曲  
鳥枕氏作歌  
卒業生其他諸氏

第七 校長村岡理學博士式言

卒業證書授與  
井上文部大臣式言  
卒業生總代謝辭

第八 告別シンフォニー (バイオリン、風琴、洋琴、合奏) ハイドン氏作曲

バイオリン卒業生 頼母木駒子

全 全 子爵 戸田忠義

風琴 全 石原重雄

全 全 島崎赤太郎

洋琴 全 元橋義敦

第九 箏調 ガボット (舞踏曲) 卒業生

大島貞子

清水秀子

富田久子

飯田三三雄

北村季晴

全 全 子爵 戸田忠義  
其他諸氏

第十 バイオリン曲 (洋琴伴奏)

甲 セレナタ モスコウスキ氏作曲

乙 セルツォ (風琴伴奏) ビゼ氏作曲

丙 タランテラ シット 氏作曲

バイオリン 頼母木駒子

全 子爵 戸田忠義

風琴 島崎赤太郎

全 石原重雄

其他 諸氏

第十一 洋琴曲(四人連弾)

十八世紀ミニユエツト デウメグリオ氏發刊

第一洋琴……………遠山甲子子

第二洋琴……………橘野糸重子子

第十二 唱歌(バイオリン、風琴、洋琴、伴奏)

此徳の華……………シウベルト氏作曲

佐藤誠實氏作歌  
卒業生其他諸氏

〔教育新聞〕明治二十六年七月七日

●東京音楽學校の卒業式 昨日卒業式に併せて演奏會を開けり東台緑深き處天樂洋々起て夏趣更に奇なり聽者雲集小松若宮殿下にも臨せられぬ數番の唱歌は卒業の女生がピアノの音を以て更にピアノに和し瑠璃盤上小珠大珠を轉ばすが如く秀手と聞へし遠山子の洋琴獨彈、石岡幸田兩子のバイオリン何れも其妙を見はし箏曲の須磨箏調ガボツト賑はしく遠山、麻生、橘糸、松野四子の洋琴四人連弾是亦聽物なりし校長村岡理學博士の式言は普通の報告を爲し了りて曰く文部省は來る九月より當校を以て高等師範學校の附屬と爲す文部省は音樂を冷眼視するか予を以て見れば大に然らざる者あり實業教育を重んぜらるゝ文部大臣の下には贅澤の如く見ゆる音

樂學校などは廢止せられ兼ねまじきを存して彼れに附し却りて實業に關係ある主計學校を廢せられしは文部大臣大に音樂を重要視せらるゝに外ならざるべしと述べ一抑一揚イヤミの如く又之を打消したる如き間だに味ありと聞こへし又曰第八の告別シンフォニー曲は往昔洪牙利の一貴族音樂學校を建て居たるに財政困難に及び之を廢せし時當時の音樂家此事を曲に作りて演ぜしに彼聽て大に感じ再び音樂學校を興せしといふ其曲なりと特に聽者に紹介す此日文部大臣臨まず席に在らば感如何にや次で牧野次官の式言卒業證書の授與ありたり

〔毎日新聞〕明治二十六年七月九日

○告別シンフォニー曲 去八日東京音楽學校にて、卒業式を兼ねて音樂演奏會を催ふし、數番の演奏は何れも妙曲佳境に入り、夏深き上野の山に吹く風も、殊に一段の趣きを添えたりしが、中にも滿堂數百の紳士貴女をして、陶然感に入らしめしは、告別シンフォニーの一曲なりけり、ソモ此の告別シンフォニーの曲といへるは、其古るき由來を尋ぬれば、ハンガリーの一貴族が、殊に音樂に心を寄せ、自から建てし音樂堂には、年々我か三百萬圓にも充つる巨額を費せしが、其の後財政意の如くならず、已むなく此の堂をも廢止することとなりたれば、年久しく此に在りたる多くの樂師は、最終の名殘にもとて音樂會を催ふしける、告別シンフォニーの曲といへるは、當時長き告別の意を寓して作れるにて、高妙なる音曲の中、無限の美情を含み、洋々たる一番の演奏に、多くの樂師は、今は是れまでなりと思ひくゝに立ち去りて、其の曲の終る頃には、僅かに數人を殘すのみに至りしが、貴族は深く感に入りけん、遂に再び其の堂を維持することとなりしてふ曲にて、今や政費節減の結果、敢へなく東京音楽學校を高等師範學校の附屬となし、來る九月を一期として、獨立せる學校の名の廢止せられん最終の音樂會に、恰かも此の曲を選みたりければ、洋琴を弾じ、ピアノを彈する多くの秀手が、思ひくゝに名殘の涙を泛べつゝ、坐を辭し去るの有様は、假粧ながらも眞に迫り、しばしは水を打つたる如く、滿堂しづみ渡りしも理はりなりき、當日は文部の當局者——口常に政費節減を唱

ふるの代議士諸氏をも見受けしが、此の際當時の感如何なりしぞ、

〔教育新聞〕明治二十六年七月十一日

◎東京音楽學校卒業式 同校第六回の卒業授與式は去八日上野公園地なる同校奏樂堂に於て施行されたり参列者は小松宮依仁親王殿下 牧野文部次官代議士高等官各高等學校長始め千五百余名流石に廣き樂堂も立錫の地なかりしさて第一は唱歌聖代の光、卒業式の歌◎第二は風琴曲ソナタ◎第三はトンジコアン歌劇幻想の曲はバイオリンにて奏されたるが擧手の巧なると曲の雅靈成とは聽衆の大喝采◎第四洋琴曲タランテラ◎第五箏須磨の曲はバイオリンと合奏なりしが本邦の名曲殊にバイオリン以て歌詞伴奏されしにより滿場隘る斗りの唱采◎第六唱歌夏の夜と潯陽江なりしが夏の夜の曲は未だ本邦人の耳心には聽馴ざる感ありて唯高き黄色なる音聲のみ續け様聞ゆるのみなりと云ひ居を聞り◎第七は村岡氏の演説(前出)尋て卒業證書を授與し終に演奏歌曲の説明あり曰く本日の唱歌中歌詞と歌曲とは配合の無理なる所もありたれば其心して御聽取願ひ升又告別シンフォニーの曲はハンガリーの貴族が極めて音楽好にて常に數十名の樂師を雇用しあり其費用一ケ年五十万ルーブル(日本金貨百五十万圓)を消費せり晩年經費節減の爲め音楽を斷念する事に決し最終の潰(演)奏會を開きしに樂師ハイドン氏は全力を注ぎ作曲して數十名の樂手と一齊に合奏し互に秘術を盡し樂曲の中途より一名つゝ樂器を携へて立退けたりしが貴族は其妙味に恍惚せり已にして樂手二人最終に立ち去らんとせし時貴族之を留め再び以前の如く採用する事となれと云ふ曲なれば今日音楽學校境遇と又今日の目出度場所なれば之を演奏するのであり升又ガボットの曲は西洋の舞踏曲なるが之を本邦の箏にて和聲的に仕組みたるもの云々次に文部次官牧野伸顯君の祝辭生徒總代元橋義教氏の謝辭あり◎第八告別シンフォニーの曲に至るや外國の曲乍ら轉だ身動きする有様にて尤も愉快に聽き居りしが中途より樂手一人つゝ恰も月蝕の如く欽け行きしは一興賞讃ありし是に於て貴族が再び音楽隊を雇用するの念を發するの無理ならざるを知れり◎第九箏ガボットの曲なり演臺箏を以て満たし殆んど歩むの餘地をもなく男女數十名高低

和聲に彈せられたるが唯弦に規則正しく爪を當らるゝのにしてテン／＼ヂヤン／＼の音のみ聞て何となく興味薄く傍に在る人咳て曰く箏には箏丈の風味あるが彼の曲は性質も組織も反對せして却てそれだけ本邦音樂の價値を損せり譬へは小刀を集めて鋸の代用に異ならずと◎第十バイオリン曲セレナタ、セルリオ、タランテラ何れも巧者なるには敬服の外なし◎第十一洋琴曲十八世紀ミニユエツト◎第十二唱歌此徳の華にて花やかにめでたく閉場されたりさて又次なるものは席中歌詞に就き批評せし者の言なり筆取り書き下せば唱歌◎詞は(前出)名家の作なれば批評するに及ばされど黒川氏の夏日晚景は何となく春に尤も近き有様なり即ち花みし春日は昨日の夢とされ寧しろ之を初夏晚景と云ふ方適當ならんか○鳥居氏作の潯陽江・中半の月の傾く程にをば一ケ月の半過や何やらもし之を月の半は傾く程にとせしならば如何にやと佐藤氏作此徳の華は一句一句並べたる感あり歌と云ふよりは文章に近きが如しと

〔音楽雜誌〕第三十四号、明治二十六年七月、一四一―一五頁

#### 明治二十六年十月五日 創立紀念會

◎音楽學校の紀念會 去五日は舊東京音楽學校創立紀念日に當るにより同校員一同奏樂堂に會し男生には高濱田村關根黒部女生には麻生高橋大塚椿の諸氏委員と成り午前九時半より左の紀念式を執行せりと

(1) 君か代(2) 上原主事式言(3) 演説(神津上原旗野)(4) 祝文(原田笹山福田山根)(5) 唱歌(豫科)(6) 風琴(野村)(7) 君は神(8) 祝辭(田村黒部)(9) 樂器の集會(10) 劍舞(11) 六段合奏(12) 滑稽音樂隊(13) 才女の鑑(14) 對話(15) 狂言(16) 滑稽唱歌(17) 活人畫(18) 奉納擊劍(19) 福引等なりしと記者切に望む音楽學校は苟も吾邦音樂の改良を謀る一源泉ともいふ所なれば假令餘興の名あるにもせよ滑稽的の演藝杯は斷然之を廢し一層世間の

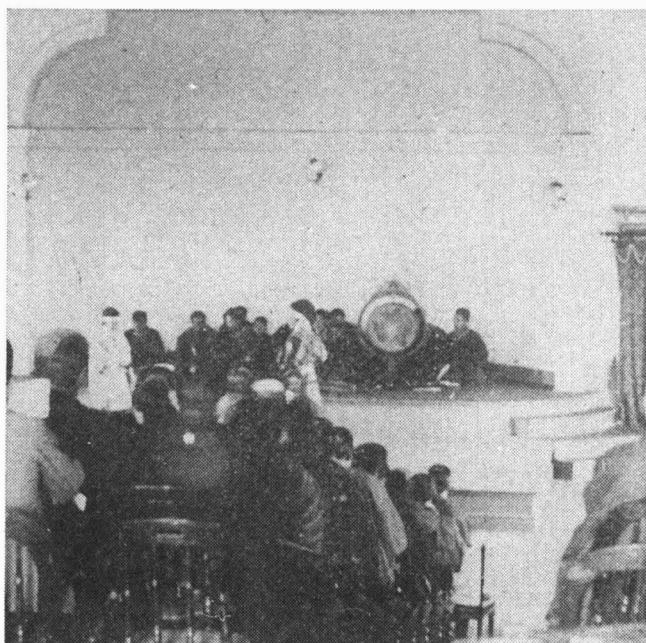
摸範てほんとなる 正樂たじしきがくを演奏されん事を

〔音楽雜誌〕第三十七号、明治二十六年十月、一二頁

### 明治二十六年十二月十七日 学友会演奏会

●音楽學校學友會演奏會 明十七日午後一時半より上野公園同校  
奏樂堂に開く其演奏曲目は左の如し

- 第一部 一、唱歌(單音、ピアノ伴奏)「甲」歳暮(エル、エルク氏作曲、佐藤誠實氏作歌)「乙」光陰速逝の歌(獨逸國民歌、黒川眞頼氏作歌)◎二、箏、ヴァイオリン合奏 浪花獅子(津久島檢校作曲)◎三、唱歌(ピアノ伴奏)「甲」可憐嬰兒(エフ、バルンビー氏作曲、鳥居忱氏作歌)「乙」我日本(エフ、バツチユス氏作曲、旗野十一郎氏作歌)◎四、ピアノ曲(獨彈)變ホ調ソナタ(第一部)(エフ、エヌ、フンメル氏作曲、橘令嬢演奏)◎五、唱歌(ピアノ伴奏)「甲」武士の心(エル、ライネツケ氏作曲、旗野十一郎氏作歌)「乙」晋明帝(エル、エツケル氏作曲、鳥居忱氏作歌)◎六、ヴァイオリン、ピアノ合奏「甲」晩歌(エル、シユーマン氏作曲)「乙」迎春(エ、グリーグ氏作曲)「丙」「サンドリロンネット」歌劇中の囃子(ロシニ一氏作曲)
- 第二部 一、ピアノ曲(四人連彈)「ヲ、レヂナ、デキ、サバ」歌劇中の緩徐進行曲(クーノー氏作曲、遠山、中村、麻生、三浦令嬢演奏)◎二、ヴァイオリン曲(二人連奏、ピアノ伴奏)「甲」モデラト「乙」アンダンテ、コンタビレ「丙」ワルト(ダンクラ氏作曲、石岡、幸田令嬢演奏)◎三、唱歌(女聲、ピアノ



明治26年12月17日 学友会演奏会より「浪花獅子」

- ノ伴奏) 子日の遊(ア、クルーグ氏作曲、鳥居忱氏作歌)◎四、三曲 四季の眺(松浦檢校作曲、荒木古童氏、山勢松韻氏、萩岡松柯氏、麻生令嬢、内田令嬢合奏)◎五、ヴァイオリン曲(ピアノ、オルガン伴奏)「甲」ラルシエン中のインター、メツゾ、(ビゼー氏作曲)「乙」セレナード(セーン、サエーンス氏作曲)「丙」アリオゾ(ヘーデル氏作曲)◎六、唱歌(ピアノ伴奏) 千瓢(ドニチエツチ氏作曲、鳥居忱氏作歌)

〔毎日新聞〕明治二十六年十二月十六日

○音楽學校の演奏

来る十七日上野公園地音楽學校の奏樂堂に於て催



ほす學友會の演奏は第一部「中略」等にて三曲は荒木古童<sup>こどう</sup>、山勢松韻<sup>しょうふうん</sup>、萩岡松柯<sup>しょうか</sup>の諸氏が合奏といへばこは聞きものなるべし

〔時事新報〕明治二十六年十二月十四日

●學友會演奏會 高等師範學校附屬音樂學校の學友會にては去る十七日上野公園地内音樂學校奏樂堂に於て午後一時半より音樂演奏會を開かれたり第一部は「中略」細評は下さざれとも何れも上出来といふ方なり同校教師デットリヒ氏は初終ピアノを離れずして非常の盡力ありしは感心々々當日は歳末の數へ日にも關せず來會者は満場餘地なく特に外國人の意外に多數なりき

〔音樂雜誌〕第三十九号、明治二十六年十二月、二二二―二四頁

#### 明治二十七年四月一日 學友會演奏會

●音樂學校學友會演奏會 同會は、本月一日午後二時より、同校の奏樂堂に於て開會せしに、來會者非常に多く、内外の貴顯紳士の馬車、人力車、學校の構内に滿ち、堂内には、空席なきまでに入り込みて、稍後れて來りし者は、皆謝絶されたる模様なりき。其奏目には、洋樂と日本樂と、互に相交はり、「ピアノ」「バイオリン」より、箏、三絃、胡弓、尺八まで、皆名手の腕をすくりしのみならず、二八、二九の妙齡なる令嬢方が、晴れを盡して裝ひ出でたる有様は、堂外に咲き亂れたる櫻花の色にも、いや優りてぞ、美しく見られる。

〔教育時論〕第三二三号、明治二十七年四月、三八頁

#### 明治二十七年四月十五日 デットリヒ送別演奏會

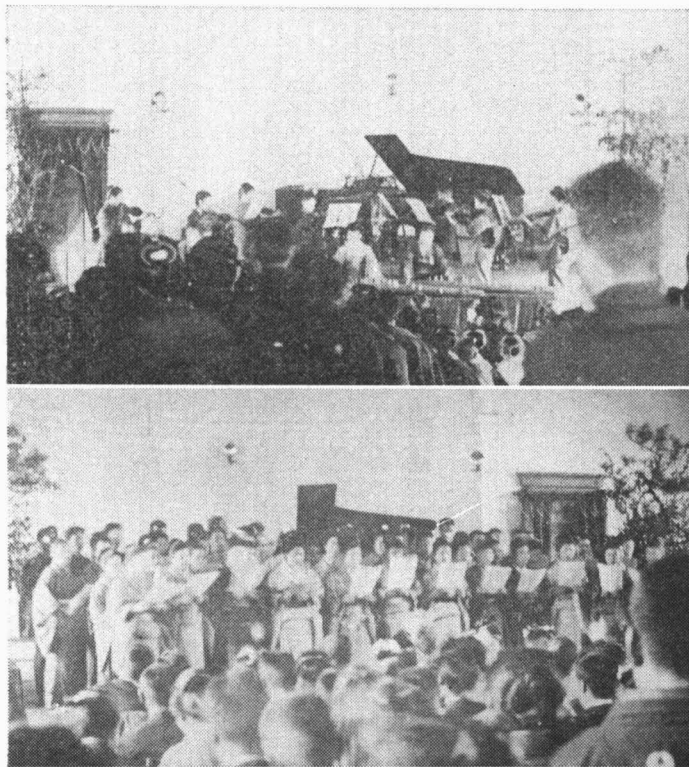
▲校友會 去る十五日附屬音樂學校の校友會にて開きたる演奏會は

今度愈々デットリヒ氏にも解雇歸國の日近きにより其名殘の演奏を聞かんと多くの外國人も集り非常の盛會にてありし

〔音樂雜誌〕第四十三号、明治二十七年四月、二六頁

#### ●音樂學校

は同校創設以來就職の勉強家として且つ該校の活記録とまで評されたる神津專三郎氏にも今度同校を去られ續て技術と教授の熟練とを以て同校の大黒柱とも評判高き上眞行氏にも同校を辭され猶ほ亦外國人御雇教師デットリヒ氏にも來る七八月頃には解雇歸國の途に就



明治27年4月1日 學友會演奏會

かるゝ事と成りし由曩に村岡校長が同校の演奏會に於てシンホルニヤの一曲を撰みて奏せしめられし事ありしが何となく前途を卜されたるやの感あり當時此曲を撰む同氏の心中亦深遠

(『音樂雜誌』第四十三号、明治二十七年四月、二六頁)

### 明治二十七年七月七日 卒業式

#### ●音樂學校卒業式

本月七日上野公園高等師範學校附屬音樂學校生徒卒業證書授與式を舉行せり其式の順序は先つ上原主事の報告ありて嘉納校長生徒に證書を授與し次て式言あるや牧野文部次官の式言卒業生總代麻生ふく子の謝辭それより演奏を始め洋琴伴奏にて親睦會、桂の枝の唱歌次に卒業生原田ふじ子、高濱孝一のバイオリン聯奏次に西川、野村、三浦三卒業生の洋琴連彈次に夢、昨日今日の唱歌次に麻生ふく子の洋琴獨彈にて騎兵、次に幸田延子(幸)のバイオリン獨奏コンサート(拍手)次にバイオリン曲三回次に唱歌菅原道眞の歌にて式全く了れり専修科卒業者の姓名は

麻生ふく 原田ふじ 高濱孝一 三浦みほ 西川とり

野村かく

(『音樂雜誌』第四十六号、明治二十七年七月、一六―一七頁)

#### 樂堂餘塵

あやめ<sup>(1)</sup>

ことし七夕の日は音樂學校の卒業式に當りておもしろき奏樂もあるべしといへば坐ろに心動きて好める道にかけりぬ。洋琴の部にも唱歌の部にもかねて名をきゝし人の校を出らるゝときくも名殘惜しきに、夏もやゝ更け

て都門寂しくさしも華かなりしシイゾンの終りかと身に染みて哀れるかたさへあり。晴れの筵に列なりて鄭重なる卒業の式をながむるうちにも、一昨年は今比は始めて『薩摩瀉』の妙曲を耳にし『雅典荒廢』の進行曲を彈ぜし人の技藝に驚きしなど、憶ひ出されては幻の如く夢のやうにして演奏に徃る。これより例の妄評なり。(一)甲は『親睦會』といひてシウベルトが活潑壯快の曲なり。中昔の物語にある美人ロザムンデが事を綴りし樂劇の拔萃にして譯歌よく原曲と合し豪壯なる狩人が親睦の心自ら音調の裡に現れたり。ソプラノの特に強くして他の三聲を壓せしは今日を晴れと歌ひし人その内に在りしならむか。乙は『桂の枝』とありて今日の卒業式を祝ふ歌なるべけれど原曲はブラアムスのチゴイネル民謡なり。これは皆人のしる如く風雅の天地に浮れて高歌踏舞を世の常のなりわひとし、きのふ伊太利亞の古跡に眠むるかと思へばけふは露西亞の平原にさまよふ彼のジプシイの聲調なれば、凄婉幽麗なる短音階の怨むが如く戯むるが如くなかなか捨難き風情あり。されど其聲の輕快にして而も多恨なる豈嚴莊肅重を旨とする卒業の曲などに用ゐるべき者ならむや。來衆のうち西人は此曲を耳にしてジプシイが事を想ふなるべく邦人は強ひて卒業の歌として聴かざる可からず。あまりに甚しき歌譜の矛盾は務めて避られたきものなり。(二)キオロン連奏はドニゼツチイが青春の作『アンナボレナ』の拔萃ときく。果敢なき運命の玩びとなりて英王が變り易き寵幸に身を惹り芥子の花の月夜に散る哀れをみせし美人を主人公としたれば原曲はもとより悲壯なる樂劇なるべけれどベリオが拔萃してキオロンに變作せしは其一小部分に過ぎず隨て凄絶悲哀なる原曲の佛を望む可からずと雖も卒業生の奏曲としては少しく短きに失し易きに過ぎざるか。第壹キオロン原田嬢は第一及び第三の位置を用ゐられ第二キオロン高濱氏は唯第一の位置をとられたのみ。技藝は前年の卒業生に比して逕庭なし。(三)洋琴六手連彈の第一はグルックが樂劇『パルデ、エド、エレナ』より拔萃せし『ガボツト』にして典雅沈靜なる作曲者の面影を印したるものゝ如く、華麗なる青年の期を過し、幽邃高潔なる老手の容に接するの想あり。演奏者は西川野村三浦の三嬢にして平生の練習茲に現はれ手指の運動關節柔軟なる一の非

難を加ふ可き點なく殊にスタカトの時腕のよく上るは他日のピアニストを以て推す可し。第二は『人形挽歌進行曲』にてグノオが固有なるメロジイを表せり。去年の春此人の逝去より此校の曲目には何時も名を留めたる作曲者にして幽寂と奔放と相兼たりといふ其特誦も今や漸く吾耳にもなれ來りぬ。今回は斷切音を含みたる進行曲にしてスタカトの多き所其特誦なるべく六手にて音階めきたる所を繰返すも面白けれど演奏の難をうたしめばエキスプレッションの薄きにあり。洋琴は他の樂器と異り特に此思ひ入れを加へ難きものなれどこれなくては單に音譜の器械的模寫に過ぎず影といひ限といふ妙趣はうつらざるべし。其他正確といふ點よりするも第二は第一より少しく劣りし如く唯中央なる野村嬢の始終心を籠めて彈せられしは苦心經營のほど察すべし。(四)キオロン獨奏はキオッチが第七『コンチエルト』の前半といへり。格調の雄大にして沈靜身にしむばかり哀れなる情を含めりとは常に彼が特色として聞く所なれど今幸田嬢が妙手によりて始めて其眞を曉りぬ。『コンチエルト』に『ソナタ』の形を入れたるもキオッチなりといひ極めて華麗なるメロジイを有すると共に少しにても破格といふ事なく、迫りてアレグロとなるも沈靜の姿を失はず舒びてアダジオとなれば哀れなる美音となりてカデンザ、シエエクなどのいみじきものありと聞覚えしなど凡て演奏者が靈妙なる翻譯を得たり。位置は第六第七のあたりとおぼしく今一步にして高等練習の堂奥に達すべきものなり。技倆は此春の時よりも一層の進歩を爲したる如く暗譜にて斯かる難曲を奏せられしはまことに天才の名も惜からず、グリッサンドの魂を漾よはすあたりエキスプレッションは美しく濃かにつきて、特に斷腸の思ありしはカデンザソロの部小指のトリル三十二分音譜の難澁なる拍子なり。左指の運動かく靈妙なるにスタカトを出すとき弓もつ腕の運び亦凡庸の摸ね得べきにあらざ、只白壁の微瑕ともいふべきはクレセンドオになりて音聲の漸く大ならむとする時弓すべりこまを越えて後方の糸に觸れしより耳ざわりなる音を出せしことなり。されど思へば此過も大に恕す可きものにして此處は鋭意音聲を大にせむとして弓に力を籠むるあたりなればことにエキスプレッションを重せらるゝ人にとりては力餘りての失策ならむか。されば

此名手にして此過ありといふべく從容迫らずして美しくも奏し終られしには評者密に舌を卷きぬ。(六)『夢』といふシウマンの曲は幻想雲の如く露の如く起りて消えかつ結ぶ幽趣いひしらず美るはし。伴奏はなけれどヂットリツヒ氏が指揮宜しきを得たれば四聲各其分を盡して男聲の美しくきこえたるもうれしく、妙は一昂一低の間ハルモニイのおもしろき變化に在りて幽遠の想自ら神韻縹緲の裡に籠れり。『昨日今日』といふメンデルソンの歌は靜なる秋の日の優しさ含みて望といふ美しき影孤雲に漂ふ如く深遠にして健全なる音律全曲を貫ぬけり。男聲の力ありて美しかりしは特にしるして音樂界の新現象と稱するも可ならむ。(七)『フザアレンドリット』はスピンドレルの小室樂曲の内特に世人の持囀すものにして壯快活動したるガロップを含みて鐵騎の鏘々として長驅する雄姿を寫したり。麻生嬢が彈奏は毫も不正確といふ點なく手指の軟柔なる感歎の至りなれども如何にせむエキスプレッション弱くして勇健なる風采をうつすに足らず、これは戰袍を長風にさらす鐵騎にあらざして後宮の花軍紫衣を飄るかへしたるに似たる可し。されど此曲はハルモニイの上大に聴く可き所多く一種妙味ある諧音面白く聞えて指遣ひの極めて困難なりしやう見受けたり。典雅堂々として正確なること遠山嬢に及はず冷艶素香一種の氣骨を具へてエキスプレッションの自在なるは橘嬢が彈奏の下に立てりて雖も優麗纖巧の方のみにては麻生嬢も亦一方のピアニストたるに恥ぢず今回の曲譜は少しく撰擇をあまりしものか。(八)キオロン合奏の甲『ラルゲットオ』は靜肅にして感深く島崎氏の風琴いつもながら堂々たり。演奏者は卒業生其他の人を合せて七名のキオロニストより成り音律の一致して亂れざること此校の精銳ともいふべく、乙なるグレイグの『スプリングタンツ』を奏せし時曲調輕快にしてスタカトを有し極めて困難なる弓なるにも拘らず一の紛亂なくして終りしにても其妙手たること明なり。丙は舞蹈曲『ガボット』にして作者のエベルハルトといふはまだ名のあらはれぬ名人なるべく、嘗て其の作『チゴイネルリイト』といふ譜をみしにフラジオレットを含みたる妙調にして非凡の人にあらざむば作り難き程の曲なりき。此の曲は拍子に困難なる所多く弓の用法込み入りて中比數部に分かれ三者の内最も面白く感

じたり。今回演奏者中に二三の新顔を見受けたるは亦音楽の社會にとりて悦ばしき事なり。(九)メンデルソンの作「クッテンベルヒの祭の歌」といふものにして訣別の意を含めりとさへいふに昔公頌徳の曲に採用せられしは殆ど何の意なるをしらず。去月鹿鳴館にて初めて之を聴き其時より面白からずと覺えしが今や再び之を耳にするに當りて如何にも歌と曲との一致せざるを認めぬ。去年今夜待清涼のあたりは是非とも獨吟の歌者を累はすべき處なるに何の異りたる節なくて已みしは聴者が大に憾とせる所なり。大曲の割に變化乏しく伴奏強きに過ぎて四聲悉くけされぬ。「薩摩湯」「富士登山」などの妙曲を歌ひなれしコオラスにして斯る無味乾燥の歌を奏するに至りしは密に此校の爲に惜むものなり。

之を總ふるに今回の演奏は寧ろ寂しげなる方にしてとりわけて絶妙といふべきは彼のキオロン獨奏のみなれど思へばまた感深きコンサアトなりき。ヂットリツヒ氏が故里に歸るは惜みても餘りある事なれど鹿鳴館などにて數度の獨奏聯彈をきゝたれば少しく慰むべく、幸田嬢が年々の進歩羨ましき程に著るしくこれはなほおひさきの頼母しきを命に今後のコンサアトを飾るもの此キオロニストなるべしと頼めと哀れなるは樂界の事日々非にして萬目蕭條の姿なりけり。されど秋風たちてまたシイゾンの歸り來らむ折にはフムメルがソナタやうのもの橘嬢に望みたく同じピアノニストとして麻生嬢ソプラノに西川嬢などなほ此校に留らむことを祈る。おもふにわれらは同じ美神の宮殿に花をさゝげて風流の愁に身を棄す同胞の如きものなれば明治聖代の風雅偏に此校の妙手と共にわかたむなどこれは家に歸りて七夕の空風雲のさはりあるを恨み靡々たる哀笛の音をきいて獨り嘯きしのみ。

(『文學界』第十九号、明治二十七年七月、一八〜二二頁)  
(一)「あやめ」は上田敏の雅号。

明治二十七年十二月八日 学友会恤兵義捐演奏会

○忍岡演奏會

此華かなる會に續きて十二月八日再び音樂學校樂堂に學友會諸氏の演奏を聴きしに豫科生諸氏の唱歌も前年より優れたるが如くキオロンに新「コオラス」の編成せられたるも賀す可し。チャベリの「ソナタ」を彈せし人は共に新ピアノニストをして多望なる將來を有せる如くなれど、「アレグロ、モデラト」にしては少しく拍子早かりし様なり。其他メンデルソンの婚禮進行曲は幾度聴きても面白く、ブロックサム嬢の「夢」といふ獨吟も美しかりき。幸田嬢がロオデエの「コンセルト」獨奏は今更喋々するを要せされど益々技藝の上達せる如く、名聲は立春の頃より愈高く京濱外客の間にも喧傳して音樂學校の「キオロニスト」と誰知らぬ者なし。凡て技藝の妙は正確に在らず纖巧に在らず曲譜の精神を會得して心を之に投ずるにあり。音樂學校中のキオロニストにしてこの美術的情感を有する者獨り幸田嬢に於て見る可し。島崎氏が風琴獨奏は番外にして「フウグ」とのみきゝしが有名なるバツハの曲にあらざりしか實に諧音の相離れ相合して或るメロジイを追ひ、ハルモニイの美しきもの數を知らず、終りに近づきて音調漸く濶大、大海の波濤の如くエキスプレッションの自在なるは言辭に盡し難し。遠山嬢の洋琴獨彈は某氏作とありしが暫にして「デエマ」に入りシユマンが「農民のウハリエシオン」なるを曉らしむ。遠山嬢が洋琴に妙なるは既に定評のある時なれども今回の彈奏を聴きて其空しからざるを曉りぬ。かの音譜の上下などをきけば益々其熟達巧妙の域に入りたるを知るべく音樂學校に此良師ある限りは西樂の將來決して失望すべきものならずと思はしむ。加ふるに輓近男子部の進歩も著しく既に當日「國の光」を歌ひし時、「テノル」「ベエス」の勢舊時の者ならずして女

聲と相頡抗して奏し終りしは音楽界に於ける新現象として賀す可きなり、〔後略〕

〔帝國文學〕第一卷第一号、明治二十八年一月、一二一―一三頁

### 明治二十八年七月六日 卒業式

#### ○音楽界

〔前略〕……又去る七月六日音楽學校に於て卒業式演奏會ありき。『秋の宮居』の唱歌莊嚴にして、幽なる處面白く、幸田嬢が『ヴァイオリン』獨奏は前年より優りたりと云ふ可からず、橘嬢が洋琴獨奏は明かに音楽學校出身中の美術家たるを示せしが、猶ほ良師に就て、技藝を琢磨せざる可からず。『ペダル』を用ふる事、未だ法に適はざるに似たり。時下炎暑の候にして既に音楽の會ある可き時にあらず、只此秋は六七年前洋行して、維也納府に『ヴァイオリン』樂を專修せられたる幸田延子嬢が歸朝せらるゝ由なれば、盛なる演奏を耳にすること遠きにあらざる可し。世は如何に軍歌々々といふとも、藝術を愛する者は、靜に樂の醇なるものを味ひて、美術の極致を拜せむのみ。

〔帝國文學〕第一卷第八号、明治二十八年八月、一二二頁

#### 西樂月日

あやめ

忍岡の樂堂に琴絃の音を聞ざる事茲に半歳、されど年毎に七夕の祭近く卒業の式を行ひ、技藝の妙を示して西樂の機運を増進せむと謀らるゝは、吾等が日比賛成する好例なり。此双紙に於て樂界の消息を洩らしゝも既に度々なれば、今年音楽の品定當るとも當らずとも次にかいつけむ。

音楽學校今年の卒業生に就て評すれば、技藝の點に於て昨年の卒業生に少しく遜色ありと謂はざるを得ず。然れども茲に記憶すべき現象は該校創設以來殆ど定則とも云れし、男生が女生に及ばずといふ事實が、今回の演奏に由て全く破壊せられし事なり。卒業生前田久八氏が彈奏せられしはクレメンチのソナタにして頗る高等の洋琴樂ならずや。之を廿五年卒業の成川氏がエンゼンのセレナードを奏せしに比して大なる差異あり。又類を當日の曲目中に求めて稀なる難曲たり。これ實に男生諸氏が凱歌の聲とも稱す可く、樂界將來の爲に賀す可き一事なれども、同氏の彈奏法を見るに未だ以て輕々しく桂冠を與ふるに足らず。躰を前に傾け洋琴に凭れて彈奏せらるゝが故に、腕にてタステンをつらし。ソナタ第一部にして全曲の基礎ともなるべきアレグロの部は先づ無難なりしも、第二部アダジオの要部に至ては幾多の難を試むるを得可し。此部は聲樂的にして幽婉の意あるべく、又ロンドオの如く美音の記憶を繰返す格調の在る可きものにして、エキスプレッシオンは全部の要點たるべきに、彈奏者は果して這般の注意ありしや否や、トリルの不充分なるは最も耳障りなりき。第三部の終末は迅速なる彈奏を要し、最も練習を積まざる可からざる部なればにや、彈奏終に少しく混亂して功を一貫に欠きぬ。Ende gut, alles gut 終を全うする者は萬事を全うすといふ西諺もあるに、最後に近きて厭ふ可き不調音を彈ぜられしは同氏の爲に大に惜む所なり。難曲を不完全に奏するよりも簡易なる樂を瑕なく彈じて人心を感動せしむるに如かずとは某名家の訓誡なり。専門の士に對して烏滸がましけれど、いさゝか一片の婆心を寄す。第十二番松の風といへる唱歌の原曲はチゴイネルが幕裡の夢を詠したる幽艶の曲にして、プロツクサム嬢の指揮の下に卒業生諸氏が各獨吟を試みたるものにして各聲部の平均宜きを得、野村氏を首とせる最低音部特に美るはしく聞えたるも、男聲の著るしき進歩を表はせり。野村氏が風琴獨奏アンダンテ、コン、モトは拍子少しく遅かりし様なりしが無難、笹山嬢の洋琴獨奏舞踏曲ミスエツトは屢々該校に於て聴きし者と酷肖したれば、或は同一の曲なりけむ。舞踏曲の常としてエキスプレッシオンの少なきは當然なれども、美術的感情の餘りにも乏しかりし様なり。されど姿勢整ひ、指の

運び軟かく弾法亂れずして、音楽學校一流の彈奏法を守り、高尚優美なる舞踏曲の意味を明瞭にせられしは同嬢の技倆なりといふべし。ヴァイオリン、合奏は第一はアンダンテ、第二はモツアルトの曲にして後宮を抜出て、戀人と共に走るといふ樂、第三はメンデルソオンがアンダンテ、カンタビレなり。共に皆先年聴きし事ありしやに覺ゆ。ソプラノの美音にしてヴァイオリン、樂を修めらるゝ戸城嬢を初めとし六人の合奏にして、遠山助教の伴奏なり。第一のアンダンテは初め甚しく混亂し、弓も正確ならざりしが、第二に至て面目を一新し面白き拍子の内に此曲を終りて第三のcantabileに移り、靜麗なる歌を聴く思ひあらしめ、且つ彈奏者の能く感情を合せたるは大に賛稱すべし。ヂットリ、師去て後事を托す可き人物なきにも拘らず、猶ほ此の如き佳良の合奏を耳にしたるは、眞に喜ばしき事なり。技倆の少しく先年卒業生諸氏に及ばざる如きは未だ咎むるに暇あらず。誰れか今日の如き樂界萎微の時に於て完成を望まむや。

以上は主として卒業生諸氏の演奏を評せしものなれど、猶ほ他數番の唱歌及び器樂ありて、特に第八番合唱秋の宮居は聽衆を感動せしめたり。原曲は生神女の讚美歌にして深沈たる幽玄の裡自ら優麗なる慈悲の意を含みたるもめでたし。小山氏の指揮島崎氏の伴奏、有望なる一年生諸氏の合唱、毫も外人の助を假らずして此の如き幽趣ある唱歌を出すに至りしは特に賀す可し。林中の音楽といふ歌は前者の幽玄想に及ばすと雖も優麗典雅、調に烟霞の美を收め風韻の掬す可きあり。外人某氏傍に在りて評者に答ふらく、*Ja, mein herr, das ist aller beste wie sie meinen* 君の思ひ給ふ如く此歌は最上の者なりと。花の夢、高嶺の桂、の唱歌にては遠山助教の伴奏宜しきを得、上講師の老練なる指揮に由て純雅高尚なる樂聲を耳にせり。女聲獨吟の櫻町といふは、獨逸祖國の歌に節附したるライハルトの作にして、ヴァイオリン、ストの幸田嬢が歌はれしこそめづらしかりしか、アルトの獨吟といへど、女聲には極めて低き音聲の秀くれて美るはしといふにもあらず、音量も豊ならざるソロなりしかば、大に望を失ひし者も少からず、疑もなく今日を以て推せば、幸田嬢は聲樂よりも、寧ろ器樂に適したる樂人なり。最終の大合唱帝國の歌は洋琴風琴ヴァイオリン、

ハイオラを交へたる唱歌にして、訓練ある組にあらずむば、紛亂混雜して不調を生じ、指揮者にして其人を得ずむば、到底統治する事を得べからずと雖も、幸にして上講師が老手を以て壯大高雅なる大平の曲を歌ひ訖りぬ。

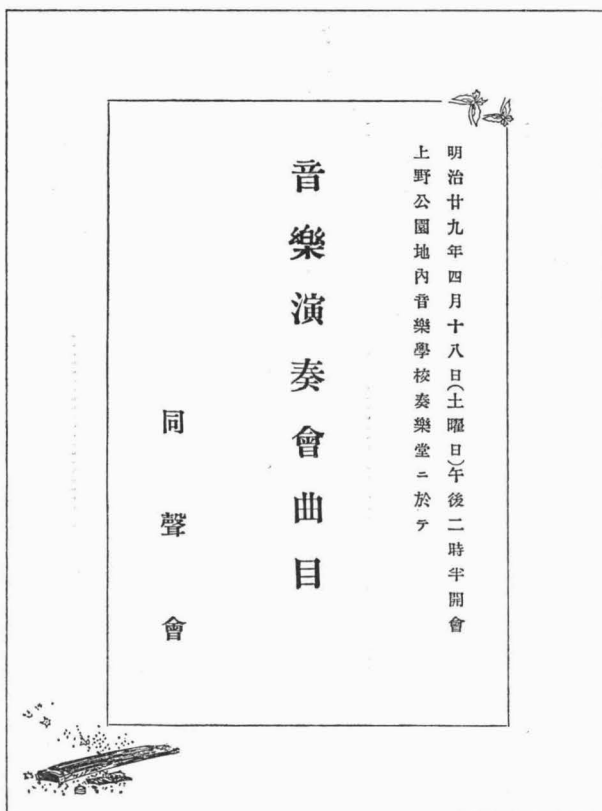
第十一番に幸田幸子嬢のヴァイオリン、獨奏あり。伴奏は近比著るしき進歩を表はせし内田菊子嬢の洋琴にして、曲はベリオ第七番のコンチエルト、之をペテル會社出版の譜に徴するに、ヘルマンが抜粹したるものあり。伴奏の序長かりしに比して獨奏の意外に短かゝりしも訝しかりしが、加ふるに當日は弓の取り方平生に比して少しく正格を脱し、前年中の如き清朗典雅の音もまた聴くべからず、今や良師遠く去りて鍛練意の如くならず、空しく天才を抱きて中道に彷徨するの已むを得ざるに至りしか。縦ままなる彈奏を爲して耳なき公衆を翻弄せむとするは、藝術を愛する者の本心にあらず、吾等は同嬢が美術家の良心を重ずるの深き、決して放縱不羈なる放膽の彈奏法に陥らざるを確信するものなれども、名器を有らたる人の中道に蹶きたる例も少からざれば敢て云ふ。

謂ふに當日の白眉は橘令嬢の洋琴獨奏なるか。曲名を逸したれど、後にきけばベエト、オヴ、エンのソナタ、CツルよりGに移り又Cに歸り、所々に妙趣を抜粹して一曲と作したるものなりといふ。感籠り情豊かに器械的彈法の域を脱出したるは同嬢の特色にして、先にフンメルが變ホ調ソナタの獨奏に喝采を搏してより茲に三年を経て、其妙技を示されたり、あはれ今吾邦に良師ありて天才ある樂家を導きたらむには、西樂のおいさきいとも望多からむも、橘嬢といひ幸田嬢といひ、先進の名手にたどらずして、新來の美術を究めむとするいぢらしさよ又いさましさよ。然れども音樂學校に於ける西樂の現今が、決して失望すべきものならざる事は、常識ある好樂の聽衆が夙に認めたる所なるべし。評者は常に多望の念を以て月旦の辭を終らむと欲す。

明治廿九年四月十八日(土曜日)午後二時半開會  
上野公園地内音樂學校奏樂堂ニ於テ

音樂演奏會曲目

同聲會



第一部

一、洋琴聯彈

ボアエルデユー氏作

學友會々員

二、唱歌

ウエツベ氏作曲、鳥居忱氏作歌

那須與一……………學友會々員諸氏

三、

バイオリン獨奏  
メンデルソーン氏作

四、三曲合奏

コンサルト第一部……………幸田延子

峰崎勾當作

吾妻獅子……………

箏同同三胡同  
弓絃

山山萩千今山  
室室岡布井勢  
千保松豐慶松  
代嘉柯勢松韻  
子氏氏子氏氏

五、風琴獨奏

バハ氏作

コンサルト……………島崎赤太郎氏

六、絃樂四部合奏

ヘイデン氏作

第一番……………

第一第二  
バイオリン  
セビオ  
オ  
ロラン

幸田延子  
山田一郎氏  
納所源一  
比留賢八氏

第二部

七、クラリネット獨奏

モザート氏作

來賓

ラーゲト……………吉本光藏氏

八、洋琴獨奏

ビートルベン氏作

ムーンライトソナタ……………遠山甲子子

九、獨唱歌(獨逸語)

シユーベルト氏作

甲 死と娘……………幸田延子

ブラームス氏作

乙 五月の夜……………

十、バイオリン合奏

バハ氏作

フーゲ (バイオリンソナタ中抜萃)

小頼母關 小井木 林井木 幸田 鈴木 小関 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木

十一、唱 歌

シユーマン氏作曲、佐藤誠實氏作歌

甲 夢

ヘイデン氏作曲、旗野十一郎氏作歌

乙 春の夕景

十二、三曲合奏

岡安砧

同胡三同同等  
弓絃  
山山萩千今山  
室室岡布井勢  
千保松豊慶松  
代嘉柯勢松韻  
子氏氏子氏氏

學友會々員諸氏

PART I

1. Piano. (for 4 hands.)

“WEISSE DAME.” ..... *Boieldieu*

Misses K. UCHIDA and K. YUI, Students of the Academy.

2. Chorus with Accompaniment.

“WHEN WINDS BREATHE THE SOFT.” ... *S. Webbe*

The Students of the Academy.

3. Violin-Solo.

“CONCERT.” (Part 1.) ..... *F. Mendelssohn*

4. Japanese Koto-Music.

Koto with Kokyū and Shamisen.

“AZUMA-JISHI.”

Messrs. YAMASE, IMAI, HAGIOKA, YAMAMURO

and Misses CHIBU, and YAMAMURO.

Miss NOBU KŌDA.

5. Organ-Solo.

“CONCERT.” ..... *Bach*

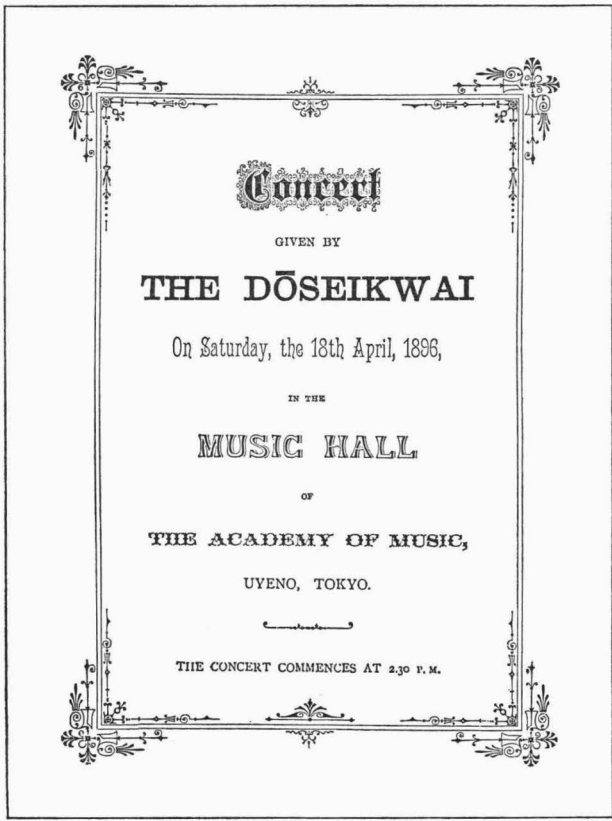
Mr. AKATARO SHIMAZAKI.

6. String-Quartet.

“No. 1.” ..... *Haydn*

Miss N. KŌDA and Messrs. YAMADA, NOSHO

and HIRUMA.





PART II.

7. Clarinet-Solo.  
“LARGHETTO” aus dem Quintett. ....Mozart.  
Mr. Kōzō YOSHIMOTO.
8. Piano-Solo.  
“MOONLIGHT SONATA.” .....Beethoven.  
Miss KINE TōYAMA.
9. Vocal-Solo.  
a. “DER TOD UND DAS MÄDCHEN.”  
.....Fr. Schubert.  
b. “DIE MAINACHT.” .....Brahms.  
Miss NOBU KōDA.
10. Violins with Piano Accompaniment.  
“FUGA” (from violin sonata.) .....Bach.  
Arranged for 4 violins by Miss N. KōDA, and  
piano accompaniment by Robert Schumann.  
Mrs. OZEKI, Misses TANOMOGI, ARAI,  
HAYASHI, KōDA, OZEKI, and SUZUKI.
11. Chorus with Accompaniment.  
a. “DER TRAUM” .....Schumann.  
b. “ABENDLIED ZU GOTTE.” .....Haydn.  
The Students of the Academy.
12. Japanese Koto-Music.  
Koto with Kokyū and Shamisen.  
“OKAYASU-KINUTA.”  
Messrs. YAMASE, IMAI, HAGIOKA, YAMAMURO  
and Misses CHIBU, and YAMAMURO.

同聲會演奏

同聲會は主として音樂學校卒業生諸氏より成れる樂會にして、去月十八日上野の樂堂に演奏會を催したり。此日幸田延子嬢は歸朝後始めて公會の演奏を試み、『ギオロン』樂に、聲樂に多年歐米に遊て習得したる技藝を示されぬ。肉聲は量ありて低く、『ギオロン』にはメンデルソンの難曲を撰びて『テクニック』の妙を盡せるは、初舞臺に適したる樂ならむ。String Quartet は感服せず、唱歌も亦然り、唯鳥居忱氏が近年の作には樂と詩との調和適合宜しきを得て屢々佳品を出さるは賀す可し。然れども旗野氏の歌に『夕告鳥』と書きて晚鴉を指したるは古文を學びし者の忍ぶ能はざる所なり。其他遠山嬢島崎氏の演奏には此樂堂に出入する者の必ず耳を傾けしならむ。翻て思ふに幸田延子嬢が主任となりて教授する音樂學校の現状は、前年ジットリック氏が指揮の下にありし時に比して如何。來七月音樂學校の卒業演奏會あるに先ち、尙數回の樂會ある可ければ、徐に觀察する所あるべし。

〔帝國文學』第二卷第五号、明治二十九年五月、一〇一—一二頁〕

同聲會演奏會

此月十八日上野の樂堂に同聲會の演奏催されたり、此會は音樂學校出身の人々より成りしものなるに、かねては長く維也納に遊びたる幸田氏の奏樂もあるべしと早くよりも聞えれば此道に好みある人々の其日集ひしも多かりしなるべし。此双紙に於て西樂の消息數々洩らせしゆかりもあれば其日のをかしき面白きさては口惜しかりしなど聽きて心に浮びし節々聊かかきつらねて此春の名残とも見ばやと月旦に筆染めしは花やかなりし席退きて夕ばへの空なつかしく家の窓に眺めし頃なりし、去るに五月の初めにも同じ樂堂に又演奏ありて再び其曲を聽くを得べき由なれば此號にはわざと載せず、當るとも當らじとも次の双紙に思ふ事并せて云ふ所あるべし。

〔文學界』第四十号、明治二十九年四月、二八—二九頁〕

去歲七夕の祭近く忍ヶ岡樂堂に西樂を聴きしより琴弦の音久しく絶えて僅に上講師の指揮の下、彼の「御代の榮」とて樂聖「ベトーフエン」がものせし幽婉なる歌を聞き、伴奏の目出度に感せしが、往く月日に關守なく、いつか知らぬ間に待ちわびし春の行衛は花と共にうつろひゆきて、梢には緑さし、宿の藤波にはゆかりの色をたへて、はや夏のながめを彩りはしめぬ。卯月十八日には兼て長く維也納に學ひ給へる幸田女史其他名ある人々の演奏あり超へて五月九日には慈善樂會ありてまちわびし甲斐こそありけれど、好める道にかけりぬ。數月の愁も此まとみに消えし心地して、名残りの響絶ゆるも惜しと拙き念を筆にのせて茲にはかなき品定めを爲す。

第一は内田由比兩嬢の洋琴聯彈にして「ボアエルデュー」が「ワイツセ、ダーメ」なり。序開きとしては美はしきものなるに此樂友會員が年を追ふて進歩せらるゝはうれしき限なり。惜むらくは「セコンド」の彈法強きに過ぎて、時には「プリモ」を消す傾ありき。これ全く樂器不良の結果とはいへ其心して物せられずばとこそは覺えしか。次て小山氏が指揮島崎氏の伴奏にかゝる「八島の浦」といふ靜邃なる「ヴェツプ」が作の唱歌あり。去れど不精確の合唱なりきとの譏りは免れざるべし、男子の出既にあしく、「アルト」は發音法の練習を缺き、加之「ソプラノ」は弱くして、始めより如何と思ひしに遂に全く調和を失ひしも見事に訖られしには痛く驚服せり。斯樂の摸範とも仰かるゝ人々にして縦まゝなる歌ひ方して耳なき公衆を弄ばんとするは、平生心を藝術に寄するものゝ本領なる乎。今の時代は西樂に取りては斯る事は何處の演奏會にても例少からぬ事なれば尤むるに足らずといふ如きに満足せられまじきを信ず。指揮者以て如何とす。

次は來衆の待ちにまつたる幸田延子女史の返り初演奏なり。六とせ七年は夢の間にも過ぎ行くものを苦學の効顯はれて錦を飾り給ひしは、やがて此日の演奏にても明かなり。「キオリン」獨奏のいともいみじき、中々に

我等如き心弱く情脆き者には彼此と月旦を試むる能はず。弓持つ手の働き沓え渡りて美はしきに左指の運動の精確なる、糸より走る樂聲のいと妙なる誰とて耳熱し胸迫りて其技倆に服せぬは無かる可し。曲は「メンデルスソンの「コンチエルト」第一部にして伴奏は彼の橘令嬢なり。糸おす指頭に満身の熱をたへて自ら其靈音に心奪はれしかと思はれいひ知らぬ細かき離れ業の自在なる實に何の語を以て表はすべきかを知らず。且や僅かなる間に同じきものを二度迄も聞くを得たるはそも如何なる吾等の幸運そや。勉めて止まずんば「ヂツトリヒ」氏が壘に逼らん事難きにあらず希くははかなき浮世の流に君か姿をうつすなく、さそう水に掉してあらぬ方に舟出し玉はず、ひたすら贅を樂神にささげ玉はんことこれわが心よりのねぎ事なり。伴奏の「ピヤノ」も此人ならではと思ひあたる困難なる節々多かりき。されど如何なる處なりけん、あやしき節なりと見しは、全く「ハルモニ」の然するなりけん。美術は妬心ある女神なりと聞く。願くはおひ先長く春秋に富み玉ふ事なれば、其心して意を攝生に用ゐて一生を此美神の聖殿に捧げ玉はんことを。

三曲合奏并に長歌は共に斯道に取りての名人なれば流石に妙技秀麗なりしは明かなれど「吾妻獅子」の如きは單調無味、平坦にして變化に乏しかりしかは崇美凄婉なる「キオリン」獨奏聴きて霧中に漂ひし我等には唯東西兩樂の特調茲にはしなくも衝突を來して日本音樂の美は西樂の滅する所となりしを覺えぬ。かゝる事は番組作る人の豫め用意する事肝要なるべし。且や九日の如きは寸暇なき身にも彼の人のみには耳傾けんと時をはかりて樂堂に入れはうたてや、あこがれし望は泡と消えて絶望の淵に沈みし人も幾人なりけん。一演奏者の都合とはいへ一度世に公にせる順序を俄然變更して來衆の心を空くするは禮を失ふの極みならずや。さても如何なる故ありたりけん。吾は其説明を求めんとす。心せよや、事にあづかりし人々よ。「オルガニスト」として此校に重きを致す島崎氏は久しぶりにて「バハ」の「コンチエルト」を獨奏せらる。此人の風采如何なればこそますます「ヂツトリヒ」氏に髣髴する。はかなき業にも薰陶の効果はそのおもかけを傳ふるにや。「エキस्पレッツシヤン」のよきは云ふも更なり、花や

かにして手の入り組みで演奏の困難にも似ず毫も断絶せざりしには誰とて感せぬはなし。唯何となく時には飽き足らぬ和聲を耳にせしは「ハルモニウム」にては奏されぬ節々のあればなる可し。かの曲の撰擇誤れりといふは、未だ此奏者が心事を解せぬか爲めなる可し。おもふに堂々たる此校に「オルゲル」なきは口惜しき限ならずや。吾等は早く彼の「パイプ」が奏樂堂の白壁にきざまれん事を望む。

嘗て東七軒寺の舊校舍に弦樂合奏を耳にせる事屢々なりしが今より指折り數ふれば、はやひとむかしの月日は空しく過きたりけん。茲に弦樂四部の「ハイデン」作の合奏をきゝていとゞ、むかしなつかしき心地す。此曲初めの部は除かれて「アレグレット」より「メヌエツト」に至る長くもなく又困難なるものにもあらず。唯第一「ギオリン」のみは遂に幸田氏を煩すの止むを得ざりしか。四人相對したる姿には日頃の悪口もいですが、今は忘れはてぬ。吾等には「メヌエツト」の方をかしく後半「セロ」の獨奏は少しく指つかひと拍子取り困難なるも「第二ギオリン」「ギオラ」はとりいで、いふ可きの値あらずかし。かく腕利揃にも似ず芽出度からざりしは何故ぞや。第二「ギオリン」が第一のに伴奏となるあたりは猶少しく大なる音あらまほし。「ギオラ」の弓の此人の平生にも似て、糸聲のおぼつかなく聞きなされし口惜しきことせられぬ。且や「セロ」ひきし人ともかゝる曲に鼻うごめかすには足らずかし。自らは素人の積りにて奏せらるゝとも誰か西樂現今の「クライシス」にかゝる遁辭を許すものぞ。あはれ「ソープレー」師此の合奏を見なば將何とかいはん。少しく顧みて斯樂の爲めに自重あれや。これとはかはりて慈善會の式部職の「オルケストラ」は流石にいみしく物せられぬ。「ワルツ」は嘗て聞きたる織巧なるもの、とりわけて、「オーバチュア」は彼の「マルタ」の作者なればいと壯快にて霧に蔽はれしうやむやの身朝日影に浴せる想ありき。只「ギオリン」の調如何はしかりしと「セロ」か時後れせりと聞きしは、ひが耳なりけん。幸田氏のピアノ伴奏にかゝる吉本氏の「クラリネット」獨奏は此樂器に特調の嫩軟多響の美音よく清妙に吹奏せられて「ギオリン」など、合奏せばひとときは興深かりけんと思はれていと口惜し。

かの小説的關係をもて名高き「月光のソナタ」を遠山嬢に依りて聞くを得たるは何等の榮ぞ、指いまだ「タステン」に觸れざるに其の姿勢の沈靜なる一見此人こそはと聽者をして納得せしむ。「ベートーフエン」といへば「クラシツク」音樂者として後代に仰がるゝ樂聖なれば其曲の「モチーフ」崇美深遂にして頗る幽玄莊重のものなるに此月光の曲は此偉人月白く風冴えたる冬の夕友と共にそゞろあるきの途次一草屋の盲少女の爲めに奏でやりし者にて彼の躰「ピアノ」に向ふと見れば疾くも超妙なる最初の和弦はおこりぬ。折しも側なる燈火は隙間も風揺ぎて、はかなくも消えぬ。彼か友はかしくも窓を開きたれば月の光は端なくも此巨人か蓬々たる頭髮と肥大なる軀とを照して其影は「タステン」の上に落ちたり。此時神靈は胸底の琴線を叩きたりけん。沈黙せし此の樂人はツト起ちて空と星とをあふぎしが「我は月光の「ソナタ」を作らん」と遂に千歳不朽なる樂譜はなりぬ。聞く遠山嬢朧夜花香空にうつもるゝ時、かすむ月影をたよりにて此廿七番第二號を奏するや、幽泉胸裡に湧きて、天才鬼想みちゝたる此作者かおもかげ幻となく眉間に漂ひ少時はわれを忘れて其妙趣にあこがれしとよ。されば嬢が手動くよと見るや、闇夜を照す月光の如く悲哀凄婉しかも幽雅なる樂聲は樂堂に滿ち渡りて彼の三拍子のいとすさまじきまで怪しく、激しては碎るか如く沈みては眠むるが如く或は高く或は低く少時は靈妙なる樂音に自失せりき。特に後半、半階音の迅速なるあたりは人知らぬ苦心さこそと感服の他なし。去れど何時もながら「ベース」の強き爲めに美はしき「メロヂー」を消すが如き事ありしは惜みても餘りある事なり。かく目出度かりしにも似ず、怪しきは「ヘルレル」が「タランテルラ」なり。この曲は八分の六拍子よりなる伊太利亞舞踏曲の一種にして「リスト」「シヨパン」などの近世樂士がものせるうるはしきものなれど其演奏月光の曲の如くならずして褒貶相半す。これ全く前後兩曲の對照あまりにいみしかりしと「ピアノ」の悪しき爲めなれば、完全なる樂器を奏樂堂に備ふる事急務なれど、技術に秀でたる此人にして時にはかゝる無味の彈奏あらんとは夢にだも見ざりき。音樂學校樂士のは機械的演奏にして曲の精神を會得せずなど、いふはかゝる事のあればなる可し。

茲に人々の注意をひききは幸田女史と「ブラチヤリニー」氏との獨吟なり。これは美はしき「テノル」にしてかれは低き「アルト」なり。

かの幽遠深刻なる「フハウスト」の「オペラ」以來、此處彼處に雄健清朗の濁吟を耳にせしが、此の度は橘令嬢、幸田嬢が「ピヤノ」「キオリン」の伴奏に熱烈壯快の妙音を弄して磅礴滾騰人をして其肉聲の清くほがらかなるに酔はしめぬ。多年訓練の功乎はた天性の美音乎。幸田女史のも橘令嬢の伴奏にして甲はなつかしき「シユーベルト」が曲にて「死と少女」なり、其曲や幽婉靜雅、其歌や悲哀多恨、加ふるに肉聲の低くして美且艶滿腔の意氣組を「エキस्पレッツシヤン」に托して自由に美音を演ず。特に終りに近くDよりAに「スエル」するあたりには、京濱の外人亦顔色なかる可し。この「五月の夜」は靜けき春の夜半、月はみ空の胸によりて玉を轉かす如き鶯のしらべを聞き草間にゆらぐ白銀の流れには幽なるさゝやぎありて此美はしき聲を吸ふて、やさしいはりはあたりには満ち、香ひの海のふるひ動くおもひして「マイナハイ」もかくやありけんと感じぬ。われはこの得意とせらるゝ低きAあたりを充分に歌ふの時を次の演奏會に迎えんと欲す。憚あるには似たれども發音の猶一層明瞭正確ならん事を希ふ。さらばよき衣着たる人の鄙めきたる言を口にするが如くにしていみじき不快ならずや。今や此「アルト」あり「テノル」あり深麗なる「ソプラ」玄幽なる「バス」を得て、四部合唱を聞くを得ば九泉の下に陥るも辭する所にあらざるなり。此希望は無理なるべきにや。

四部に分たれたる「キオリン」合奏は幸田女史のアレンジされたる「バハ」か「フーガ」なり。演奏の妙「エキस्पレッツション」の適當なる「ヂットリヒ」氏歸國後の好合奏なり。新しき「キオリンスト」見るはよろこばしき事にて、伴奏の「ピヤノ」特に美はしくあでやかなりしは「シユーマン」の作と聞きしが、名ある人のは、かゝるものにもゆかしき狀見ゆるは天才なればにや。幸田氏にとりては此の「アレンジメント」は何の事もなかるべければ、われ等は早くいみじき作曲のあらん事を待つ。

學友會諸氏が唱歌「夢」並に「羽衣」彼れはかつて「ヂットリヒ」氏これは去歲上氏の指揮の下に歌はれて共に四の聲のいとよく合ひて、高潔優

婉の想自から神韻縹緲の裡に籠れりとの好評ありしものにして今回は先にも劣らずいとうるはしかりき。彼の「夢」の「恨めしや夢か墓無の夢」といふあたりの「ハルモニ」は何事の妙ぞ。「國の光」と「春の夕景」は一は遠山嬢他は橘嬢の伴奏なり。おもふに演奏者をしてよく其技倆を振はしむるは一に伴奏者の思慮如何にあり。只樂譜にたよりて演奏する人を顧みざるが如きは「アコンパニスト」とは名付くる能はず。蓋し決して演奏者をして伴奏に合はさしむるにあらざればなり。此二曲もとより一は纖巧一は偉大、其けぢめは已に明かなれど「國の光」の方無難なりしは歌のよかりしも其一原因ならむ。彼の「ヂットリヒ」氏ありし頃は合唱常に演奏中の最高位なりしに今は全く反對の地位を占むるにいたりぬといふは至言といふ可し。拍子取る人は曲の撰擇と唱ひ方の一層正確堂々なる可きとに注意すべし。此任にあたるの人今は上講師の外なければ滿腔の熱心をさゝげて此希望を寄す。

嘗て去歲の月旦にて西樂の現今が決して失望すべきにあらざるを認めしが此度の樂聲を耳にしては我等のよるこびは益々多望の念を以て茲に筆を終らざるを得ざるなり。「ヂットリヒ」氏去りて我等は良師を失ひたるを嘆せしが、今や幸田女史の新に歸へり玉ひて斯樂の爲めに盡力せられるは弦樂の未來いよく頼もしく、合唱には熱心なる上講師が思をひそめ玉ひ、「ピヤニスト」としては望を屬すべき人も少なからず、其他深く心を寄せさせ玉ふ人々さわなれば我等の意を強うする又如何ばかりぞや。さはれ菲才薄文の身を以て其道の人々が晴れの業のよしなし云ひけんは罪深く恐ろしくはあれど年月美神の祭壇にぬかづきし身の其行末をおもひては遂にもだしがたく、計らぬ罪を大家名人に得しも決して少からじ。去れど同じ美の爲にすなる人々はこの放言綺語を咎め給はじ。

『文學界』第四十一号、明治二十九年五月、八〇一頁

明治二十九年五月三十日 學友會演奏會

明治二十九年五月三十日（土曜日）午後二時半

學校學友會演奏曲目

東京上野公園地音樂學校奏樂堂ニ於テ開會

第一部

- 一、ピヤノ(連彈)
  - 全會員 河野虎雄氏 演奏
  - 片岡龜雄氏
- 二、唱 歌
  - 甲 朝 日……………スー ツ ペ 氏作曲
  - 乙 士 氣 歌……………旗野十一郎氏作曲
  - 三、オルガン(連奏)
    - 全會員 永井幸次氏 演奏
    - 高橋二三四氏
  - 四、箏
    - 葬式進行曲……………シヨ ッ パ ン 氏作曲
    - からごと新曲……………黒川眞頼氏作曲
    - 山勢松韻、山登萬和、櫛田榮清、三氏合作及合奏
  - 五、バイオリン(獨奏)
    - 會員 幸田幸子 演奏
    - コンサート第九……………ベリオ 氏作曲
  - 六、唱 歌
    - 薩摩潟……………シ ユー マ ン 氏作曲
    - 鳥居忱氏
    - 名譽員 上眞行氏 指揮

第二部

- 七、唱 歌(二部連唱)
  - 會員 女子部諸氏 演奏
  - 鉢の木……………ルビンスタイン氏作曲
  - 鳥居忱氏
- 八、ピヤノ(獨奏)
  - 會員 内田キク子 演奏
  - セレナード……………エ、イエンセン氏作曲
- 九、獨唱 歌
  - 名譽員 幸田延子 演奏
  - オペラ(ミトラレーネ)中……………ロ ッ シ 氏作曲
  - アー、レンヂ、ミ
- 十、バイオリン
  - 會員 諸氏 演奏
  - 甲 ノクチュルネ……………フイールド氏作曲
  - 乙 モーメント、ミュージカル……………シユーベルト氏作曲
  - 十一、ピヤノ(四人連彈)
    - 會員 塚越カガ由比クメ 四子演奏
    - 鈴木トメ上原ツル
    - ミニユエット……………ヴエンセンゾ、ド、メグリオ氏發刊
  - 十二、唱 歌
    - 甲 夢 の 世……………イ、エス、インゲルスベルグ氏作曲
    - 中 村 秋 香 氏
    - 乙 富士の卷狩……………メンデルソン氏作曲
    - 鳥居忱氏
    - 名譽員 上眞行氏 指揮

明治二十九年七月四日 同聲會三陸海嘯災義捐音樂會

明治廿九年七月四日(土曜日)午後三時

東京上野公園音樂學校奏樂堂ニ於テ開會

嘯災音樂會演奏曲目

侯爵 西園寺公望閣下  
 牧野 伸顯閣下  
 嘉納治五郎閣下  
 賛成

同聲會

第一部

- 一、唱 歌……………學友會々員諸氏
- 甲、流れし家……………〔作曲〕ウエブスター氏  
 〔作歌〕大和田建樹氏
- 乙、湖 上……………〔作曲〕メンデルスゾーン氏  
 〔作歌〕旗野十一郎氏
- 二、ピアノ獨奏……………前田久八氏
- アンダンテ  
 (ソナタ第十四番第二號中)
- 三、唱 歌(女聲二部合唱)……………
- 甲、未 定……………〔作曲〕メンデルスゾーン氏  
 〔作歌〕中村秋香氏
- 乙、歸る雁がね……………〔作曲〕メンデルスゾーン氏  
 〔作歌〕中村秋香氏
- 四、ヴァイオリン獨奏……………幸田のぶ子
- 甲、カヴァチナ……………作曲ラッフ氏
- 乙、ペルペツウームモビレ……………作曲ボーム氏
- 五、唱 歌……………學友會々員諸氏
- 甲、慈 善……………〔作曲〕グロヴァー氏  
 〔作歌〕中村秋香氏
- 乙、義 勇……………〔作曲〕メンデルスゾーン氏  
 〔作歌〕旗野十一郎氏

- 六、箏 曲……………〔山〕井勢松韻氏
- 五段砧
- 第二部
- 七、ピアノ四人聯彈……………〔山〕上原比呂氏  
 〔作歌〕塚越おとめ氏
- ミニユエツト (ヴェンセンゾ、ド、メグリオ氏發刊)
- 八、唱 歌(ヴァイオリン伴奏)……………〔林〕幸田こふ子  
 〔作曲〕メンデルスゾーン氏  
 〔作歌〕旗野十一郎氏
- 九、ピアノ獨奏……………遠山きね子
- ゼブルーク……………作曲パーペー氏
- 十、ヴァイオリン合奏……………學友會々員諸氏
- 甲、ノクチュルネ……………作曲フイールド氏
- 乙、モーメントミュージカル……………作曲シユールト氏
- 十一、唱 歌……………學友會々員諸氏
- 薩摩瀉……………〔作曲〕シユーマン氏  
 〔作歌〕鳥居枕氏
- 十二、箏 曲……………〔山〕萩井勢松氏  
 〔作歌〕岡松松韻氏  
 〔作歌〕室保嘉氏

附言 唱歌々詞ハ當日會場ニ於テ配布ス

西行櫻

CHARITY CONCERT  
FOR THE  
RELIEF OF SUFFERERS BY THE LATE TIDAL  
WAVE.

UNDER THE PATRONAGE OF  
His Excellency Marquis KIMMOCHI SAIONJI.  
NOBUAKI MAKINO Esq. JIGORO KANŌ Esq.

GIVEN BY  
THE DŌSEIKWAI  
*On Saturday, July, 4th 1896.*

IN THE  
CONCERT HALL  
OF  
THE ACADEMY OF MUSIC,  
UENO, TOKYO.

TO BEGIN AT 3 P.M.

*Ticket may be obtain at the door.*

PART I.

1. Chorus with Accompaniment :
  - a. "HOME IS SAD WITHOUT MOTHER." ..... *Webster.*
  - b. "AUF DEM SEE." ..... *Mendelssohn.*  
The Students of the Academy.
2. Piano Solo :  
ANDANTE. (from sonata Op. 14 No. 2.)  
..... *Beethoven.*  
MR. KIŪHACHI MAYEDA.

3. Two-part Songs :
  - a. "VOLKSLIED." ..... *Mendelssohn.*
  - b. "ABSCHIEDSLIED der ZUGVOGEL."  
..... "  
MISSSES K. UCHIDA, F. SUZUKI, C. HAYA-  
SHI AND KŌDA.
4. Violin Solo :
  - a. "CAVATINA." ..... *Raff.*
  - b. "PERPETUM MOBILE." ..... *Bohm.*  
MISS NOBU KŌDA.
5. Chorus with Accompaniment :
  - a. "CHARITY" ..... *Glover.*
  - b. "DEUTSCHLAND" ..... *Mendelssohn.*  
The Students of the Academy.
6. Koto Music :  
"GODAN KINUTA." .....  
MESSRS. YAMASE AND IMAI.

PART II.

7. Piano (8 hands.) :  
MINUETTO ..... *Vincenzo de Meglio.*  
MISSSES K. YUI, T. UYEHARA, K. TSUKA-  
KOSHI AND O. SUZUKI.
8. Song with Violin and Piano Accompaniment :  
SERENADE ..... *Gounod.*  
MISSSES C. HAYASHI AND K. KŌDA, Violin  
Accompaniment by K. TANOMOGI.
9. Piano Solo :  
"THE BROOK." ..... *Willie Pape.*

MISS KINE TŌYAMA.

10. Violins with Piano Accompaniment:

- a. NOCTURNE.....Field.
- b. "MOMENT MUSICAL.".....Schubert.

11. Chorus with Accompaniment:

ZIGFUERNERLEBEN. ....Schumann.

The Students of the Academy.

12. Koto Music.

"SAIGYO SAKURA." .....

MESSRS. YAMASE, IMAI, HAGIOKA AND

YAMAMURO.

○嘯災義捐音樂會 音樂學校出身者より成る同聲會は過七月四日上野公園音樂學校奏樂堂に於て彼の慘狀を極めたりし三陸海嘯被害者のために義捐音樂會を催し收入の金額は擧げて之を三縣に寄贈せられたりと云ふ而して當日の唱歌は殊に過般の慘狀を詠じたるものにして頗る聽衆一般の同情を惹起せしめたり今其曲目の全部を左に掲ぐ〔曲目省略〕

〔音樂雜誌〕第五十九号、明治二十九年八月、三五頁

明治二十九年七月十一日 卒業式

高等師範學校 生徒卒業證書授與式及音樂演奏順序  
附屬音樂學校

明治廿九年七月十一日(土曜日)午後三時

ヨリ上野公園音樂學校ニ於テ施行

高等師範 學校附屬 音樂學校生徒卒業式順序

一、主事上原六四郎報告

二、卒業證書授與

三、校長嘉納治五郎告辭

四、文部大臣演說

五、卒業生徒總代謝辭

演奏 第一部

第一 ピアノ (四人連奏)

第一ピアノ 〔專修部卒業生 全全〕

第二ピアノ 〔全全〕

進行曲(ラ、レジナ、デイサバ)……グーノー氏作曲

第二 オルガン (獨奏)

專修部卒業生 永井幸次

第三クワルテット第一部 シューマン氏作曲

第三 バイオリン (獨奏)

專修部卒業生 幸田幸

ファンタシア、アパシオナータ(ラーゴ)及サルタレレ) ビュータン氏作曲

第四 唱歌

卒業生其他諸氏

陶淵明……………〔ブルームス氏作曲 鳥居忱氏作曲〕

第二部

第五 ピアノ (二人連奏)



専修部卒業生 片河 岡野 龜虎 雄雄

オーベルツレー、ツール、オーベル、エリザベット

ロッセイニ氏作曲

第六 バイオリン(合奏)

専修部卒業生

全全 幸小 鈴小

木關

フス

クテ幸

甲 プレギエラ……………シユームルト氏作曲

乙 ルール……………バハ氏作曲

第七 オルガン (二人連奏)

専修部卒業生

全 高野 鹿三 助

進行曲……………シユームルト氏作曲

第八 ピヤノ (獨奏)

専修部卒業生

内田

キ

ク

ソナタ (第十二)……………モツアルト氏作曲

第九 唱歌 (バイオリン、セロ、オルガン及ピアノ伴奏) 卒業生其他諸氏

奉迎ノ歌……………ラッスツス、クレムゼル氏作曲  
照川眞頼氏作曲

Commencement Exercises

OF

The Academy of Music,  
UENO PARK.

3 P. M. Saturday, July 11th, Meiji 29 (1896).

Programme.

- I. Report by Mr. Uehara, Manager of the Academy.
- II. Presentation of Diplomas.
- III. Address to the Graduating Class by Mr. Kanô, Director of the Higher Normal School.
- IV. Address by His Excellency the Minister of State for Education.
- V. Response by the Representative of the Graduating Class.

PART I.

1. Piano Quartette (two pianos) :  
Marcia (La Regina di Saba) ……………Gounod.  
Graduates: Miss Yui. } 1 st piano.  
                  // Uehara. }  
                  // Tsukakoshi. } 2 nd piano.  
                  // Suzuki.
2. Organ Solo :  
Erster Satz, aus dem III ten Quartette ……………Schumann.  
Mr. Nagai, Graduate.
3. Violin Solo :  
Fantasia-Appassionata (Largo-Saltarelle) ……………Vieuxtemps.  
Miss K. Kôda, Graduate.
4. Chorus :  
An die Heimath ……………Joh. Brahms.  
("To-Emme!" by Mr. Torii.)  
Graduates and others.

PART II.

5. Piano Duet :  
Overture zur Oper Elisabeth .....*Rossini.*  
Messrs. Kōno and Kataoka, *Graduates.*
6. Violin :  
a. Paghica.....*Schubert.*  
b. Loure.....*Bach.*  
Misses K. Kōda, Ozeki, and Suzuki, *Graduates.*
7. Organ Duet :  
Marsch.....*Schubert.*  
Messrs. Takahashi and Komeno, *Graduates.*
8. Piano Solo :  
Sonata No. 12 .....*Mozart.*  
Miss Uchida, *Graduate.*
9. Chorus With Violin, Cello, Organ, and Piano :  
Old Netherlandish Festival Song.....*Lassus-Krenser.*  
("Hōgei no Uta" by Dr. Kurokawa.)  
*Graduates and others.*

明治二十九年八月二十四日、二十八日 漫遊音楽大演奏会

◎漫遊音楽大演奏會

前號に於て音楽學校出身者早川永井高橋米野等の諸氏が關西地方を漫遊しつゝ音楽大演奏會を公開せんことを述べたりしが今其實況の概報を聞くに八月廿四日四日市公會所に於て開會當日來會者は郡長町村長學校職員其他紳士淑女無慮五百有餘名頗盛會なりし由其演奏曲目順序は左の如し

第一 部

一、開會之主意

深澤登代吉

- 二、單音唱歌  
(一) 凱旋の歌 (二) 我國  
同聲會員
- 三、風琴獨奏  
永井幸次
- 四、單音唱歌  
同聲會員
- (一) 秋の夕 (二) 破邪曲
- 五、風琴獨奏  
高橋二三 四
- 六、ヴァイオリン獨奏  
早川喜左衛門
- 七、獨唱歌  
永井幸次
- 八、ヴァイオリン及唱歌  
深澤登代吉

第二 部

- 一、三重音唱歌  
同聲會員
- (一) 領巾塵嶺 (二) 晚鐘  
高橋二三 四
- 二、風琴獨奏  
永井幸次
- 三、獨唱歌  
同聲會員
- 四、唱歌ヴァイオリン風琴合奏  
同聲會員
- 五、風琴獨奏  
永井幸次
- 六、單音唱歌  
同聲會員

(一) 夢 (二) 奉迎之歌

- 七、ヴァイオリン及び唱歌  
深澤登代吉
- 八、君か代 (二) 回合唱  
來會者一同

同廿八日夜大津市公道館に於て開會、當日來會者の重なるものは知事郡長町村長學校職員其他無慮千餘人にして館内立錫の餘地なかりき其曲目順序左の如し

第一 部

一、開會の旨意

發起人 大高 信藏

二、謝辭

同聲會員 深澤 登代吉

三、唱歌

米野、深澤、甲賀

(一) 我國 (風琴伴奏)

(二) 滋賀の湖 (ヴァイオリン、サクソンアルト伴奏)

四、風琴獨奏 (佛國國歌マルセーユ)

高橋 二三四

五、唱歌

同聲會員

(一) 秋の夕 (風琴伴奏)

(二) 破邪曲 (風琴ヴァイオリン伴奏)

六、箏曲合奏 (松竹梅)

山本、高瀬、甲賀

七、獨唱歌 (風琴伴奏)

宮部 ふじ

(一) 才女

(二) 母の思

八、ヴァイオリン獨奏 (風琴伴奏)

早川 喜左衛門

(一) ゲベトノ

(二) サゲルコール (ウエーベル作)

九、サクソンアルト獨奏

甲 賀 氏

第二部

一、箏曲合奏 (六段)

深澤、甲賀、山本、高瀬

二、獨唱歌 (風琴ヴァイオリン伴奏)

永井 幸次

秋 景

三、箏曲 (越後獅子)

山本、高瀬

九、風琴獨奏

永井 幸次

(一) テンホテイマーシア

(二) ローマンス

十、唱歌 (風琴、ヴァイオリン、サクソンアルト伴奏)

(一) 菊

同聲會員

(二) 奉迎の歌

同聲會員

(三) 凱旋

『おむ賀久』第六十一号、明治二十九年九月、三九〇頁

明治二十九年十一月八日 同声会秋季演奏会

明治廿九年十一月八日 (日曜日) 午後一時半

東京上野公園音楽學校奏樂堂ニ於テ開會

秋季音楽演奏會順序

同聲會

第一部

一、絃

樂 (ヴァイオリン、ピアノ合奏)

〔本會々員及諸氏  
學友會々員〕

婚禮行進曲

メンデルソーン氏作曲

二、ピアノ聯彈

〔河野 龜 雄氏  
片岡 龜 雄氏〕

トロバドール

ベルヂー氏作曲

三、唱歌

〔本會々員及諸氏  
學友會々員〕

甲、子を思ふ母

〔フランツ氏作曲  
黒川 眞 頼氏作曲〕

乙、秋のみのり

〔大和田建樹氏作曲〕

四、獨唱歌 (獨逸語)

幸 田 延 子

- 甲、子守歌……………リー ス氏作曲
- 乙、遊歴者……………シユーベルト氏作曲
- 五、ヴァイオリン合奏(ピアノ伴奏)……………本會々員諸氏
- タンハイゼル……………ワグネル氏作曲

第二部

- 六、唱 歌……………全唱 幸田福子
- (ヴァイオリン合奏) オルガン 米野鹿之助氏
- (ピアノ及オルガン合奏) アヴェマリア……………グノー 氏作曲
- 七、ピアノ獨彈……………橘 絲 重子
- ロンドーカプリチオーソー……………メンデルソン氏作曲
- 八、管樂三部合奏……………{コルネット 東儀 俊龍氏
- {アルトホルン 多田 忠基氏
- {トロンボーン 菌 十一郎氏
- テルツェットアウスロベルト……………マイエルベアー氏作曲
- 九、ヴァイオリン及ピアノ合奏……………{幸田 幸子
- {内田 菊子
- ソナタ第五番……………ビートルヴェン氏作曲
- 十、唱 歌(管絃樂及ピアノ伴奏)……………{來賓本會々員諸氏
- {及學友會々員諸氏
- 天の巖戸……………{旗野 十一郎氏作曲
- {ハインデ 氏作曲

Concert  
GIVEN BY  
THE DŌSEIKWAI

On Sunday, the 8th November, 1896.  
IN THE  
Music Hall  
OF  
THE ACADEMY OF MUSIC,  
UYENO, TOKYO.  
THE CONCERT COMMENCES AT 1.30 P. M.

PART I.

- 1. Violin, Viola, Cello and Piano.  
WEDDING-MARCH. ……………Mendelssohn.  
The members of the Dōseikwai and Students  
of the Academy.
- 2. Piano-Duett.  
IL TROVATORE. ……………Verdi.  
Messrs. KONO and KATAOKA.
- 3. Chorus.  
a. THE MOURNER. ……………Franz.  
b. SCHWÄB. VOLKSIED. ……………  
The Students of the Academy and Members of  
the Dōseikwai.
- 4. Vocal-Solo.  
a. WIEGENLIED. ……………Ries.  
b. DER WANDERER. ……………Schubert.  
Miss N. KŌDA.
- 5. Violins with Piano.  
GRAND DUO BRILLANT SUR TANNHÄUSER.  
……………Wagner.

The members of the Dōseikwai.

PART II.

6. Vocal-Solo with Violin, Organ and Piano.

AVE MARIA. ....Gounod.

Misses K. KODA, SUZUKI, TANOMOGI, Mr.

KOMENO and Miss UCHIDA.

7. Piano-Solo.

RONDO CAPRICCIOSO.....Mendelssohn.

Miss TACHIBANA.

8. Trio for Cornet, Alt-Horn and Trombone.

TERZETT AUS ROBERT.....Meyerbeer.

Messrs. S. TOGI, C. ŌNO and J. SONO.

9. Violin and Piano.

SONATA No. 5.....Beethoven.

Misses K. KODA and UCHIDA.

10. Chorus with Orchestra and Piano.

GOD OF LIGHT (from Season.).....Haydn.

The members of the Dōseikwai, Students of the

Academy and others.

明治二十九年十二月十二日 学友会演奏会

明治二十九年十二月十二日 (土曜日) 午後一時半

音楽學校 學友會演奏曲目

上野公園音楽學校奏樂堂ニ於テ開會

第一部

一 ピアノ (二人連弾)

ヂー、シエーネ、ヘレナ

全會員 高橋正作氏演奏

オッフエンバハ氏作曲

二 バイオリン

甲 ワンネ、アル、シヨ、ヘネ

乙 アニトラの舞蹈

全會員 鈴木關氏演奏

全會員 安達カトウ氏演奏

三 唱歌

甲 子を思ふ母

乙 秋の末の野

全會員 黒川頼氏演奏

全會員 鳥居枕氏演奏

全會員 上眞行氏演奏

四 オルガン (獨奏)

甲 アダジオ (オルガンソナタ第一番ヨリ抜萃)

乙 ロマンズ

全會員 神山末吉氏演奏

全會員 メンデルソン氏作曲

全會員 シヨパン氏作曲

五 ピアノ (二人連弾)

ヂー、アフリカーネリン

全會員 横山鹿衛子氏演奏

全會員 高木チカ子氏演奏

六 絃樂 (四部合奏)

第一バイオリン

第二バイオリン

ヴィオラ

全會員 稲岡美賀雄氏演奏

全會員 石野巍氏演奏

全會員 櫻井信彰氏演奏

第二部

〔ヴァイオリンセロ 全 益山 謙吾氏〕

セレナード  
ハ イ デ ン 氏 作曲  
會 員 諸 氏 演奏

七 唱 歌  
甲 觀菊の宴

乙 林中ノ音楽

八 ピヤノ (獨奏)

バラード

九 バイオリン (獨奏)

コンサルチーノ

十 唱 歌

甲 潯陽江

乙 湖上

シ ユー マ ン 氏 作曲  
名 譽 員 黒 川 眞 頼 氏 演奏  
メ ン デ ル ソ ン 氏 作曲  
名 譽 員 旗 野 十 一 郎 氏 指揮  
全 員 小 山 作 之 助 氏 演奏  
會 員 瀧 廉 太 郎 氏 演奏  
ヨ セ フ、 ラ イ ン ベ ル ゲ ル 氏 作曲  
贊 助 員 幸 田 幸 子 演奏  
シ ョ ッ ト 氏 作曲  
會 員 諸 氏 演奏  
シ ユー マ ン 氏 作曲  
名 譽 員 鳥 居 忱 氏 作曲  
メ ン デ ル ソ ン 氏 作曲  
名 譽 員 旗 野 十 一 郎 氏 指揮  
全 員 上 眞 行 氏 演奏

明治三十年三月二十八日 同声会第二回総集會

○同聲會總集會 來廿八日同會は第二回總集會を開かるゝ由なるか  
同日は第一部に會務報告、理事改選、議事及第二部にヴァイオリン  
合奏、低音獨唱歌、來賓中島力造君演説(我國に於ける西洋音楽の  
將來)ヴァイオリン獨奏、ピヤノ聯彈等あり午前九時より始め午後  
五時に終る豫定なりと云同會は音楽學校出身者の團體に依て組立せ  
られたれは同會の消長は實に我が國一般音楽の消長の關する所、さ

ればにや同會員諸士は熱心に黽勉に其の學理を究め其の技術を研き  
音に此總集會のみならず毎月通常會をも開會し其の際にも互に宿論  
を戦はし練技を較して以て我が國音楽の源泉を清むることに餘念な  
しとぞ

〔『おむ賀久』第六十七号、明治三十年三月、三九〇頁〕

明治三十年五月八日 同声会春季演奏會

明治三十年五月八日(土曜日)午後二時  
東京上野公園音楽學校奏樂堂ニ於テ開會  
春季音楽演奏會順序

同 聲 會

第 一 部

- 一、唱 歌(女聲三部合唱)……………學友會々員諸氏
- 佐 保 姫……………マルケツチ氏作曲
- 中 村 秋 香氏作曲
- 二、ヴァイオリン獨奏……………頼母木こま子
- コンサルチーノ……………シ ョ ッ ト 氏 作曲
- 三、唱 歌……………學友會々員諸氏
- 甲、友の交……………クレンゼル氏作曲
- 由 比 糸 子 作曲
- 乙、新版圖……………アドルフ、エンセン氏作曲
- 旗 野 十 一 郎 氏 作曲
- 四、胡 弓……………三 箏 胡 弓
- 山 萩 山 室 岡 室 保 嘉 氏
- 山 室 千 代 氏

鶴の巢籠

五、ピアノ四人聯弾

瀧橋高横  
本木山  
廉正ち鹿  
太郎作か枝  
氏氏子子

エグモント中のオーヴァチュア……ビートルヴェン氏作曲

第二部

六、ヴァイオリン合奏

頼母木こ  
原田ふすこ  
小関木  
鈴木ふくてうじま  
子子子子子子

レゲンデ……ウキニアウスキ氏作曲

七、箏

新 晒  
三箏  
萩山岡勢松  
萩松  
柯韻氏

八、ピアノ獨奏

アンプロンプツ……内田きく子  
シューベルト氏作曲

九、ヴァイオリン及ピアノ合奏

幸幸田田  
橋田の  
全  
ピ  
ア  
ノ  
橋田の  
重うぶ  
子子子子

コンサルト……バハ氏作曲

十、唱

歌……學友會々員諸氏

甲、藤の色香……マエアベア氏作曲  
大和田建樹氏作曲

乙、朝の歌……メンデルソン氏作曲  
佐々木信綱氏作曲

Concert  
GIVEN BY

THE DŌSEIKWAI

On Saturday, the 8th May, 1897,

IN THE  
MUSIC HALL

OR  
THE ACADEMY OF MUSIC,

UYENO, TOKYO.

THE CONCERT COMMENCES AT 2 P. M.

PART I.

1. LADIES CHORUS.

AVE MARIA. .... *Marchetti.*  
THE STUDENTS OF THE ACADEMY.

2. VIOLIN-SOLO.

CONCERTINO. .... *Sitt.*

MISS TANOMOGI.

3. CHORUS.

a. WENN ZWEIFE SICH GUT SIND. .... *Krenser.*  
b. NEUE LIEDE. .... *Adolf Jensen.*  
THE STUDENTS OF THE ACADEMY.

4. KOKIJI. (WITH KOTO AND SHAMISEN.)

TSURUNO SUGOMORI.  
MR. YAMAMURO ACCOMPANIED BY

5. PIANO QUARTET. (2 PIANOS.)

OVERTURE ZU EGMONT. .... *Beethoven.*

MISSES YOKOYAMA AND TAKAGI.  
MESSRS HASHIMOTO AND TAKI.

PART II.

6. VIOLINS.

LEGENDE.....*Winiarski.*  
MISSES TANOMOGI, HARADA, K. KODA,  
OSEKI AND SUZUKI.

7. KOTO. (WITH SHAMISEN)  
SHINZARASHI.

MR. YAMASE ACCOMPANIED BY MR. HAGIOKA.  
8. PIANO-SOLO.  
IMPROMPTU.....*Shubert.*

MISS UCHIDA.  
9. VIOLINS AND PIANO.  
CONCERT.....*Bach.*  
MISSES N. KODA, K. KODA AND TACHIBANA.

10. CHORUS.  
a. SANCTA MARIA.....*Meyerbeer.*  
b. FRÜHLINGSLIED.....*Mendelssohn.*  
THE STUDENTS OF THE ACADEMY.

●春季音楽大演奏會 同聲會の春季大演奏會は豫定の如く去ぬる八日午後二時より上野公園音楽學校奏樂堂に於て開かれぬ、千櫻の白雲は人雷と共に散じて寂然たれども万樹の綠烟は今漸く濃やかにして微妙の音響を聴くに好氣節、當日は殊に天晴れ氣和なりければ貴紳淑女の來り會する者其の數無慮七百餘名頗る盛會なりき、さ

れど例會に比して聴衆の少なき感ありしは蓋し大喪中に係れる故か、演奏は二部十番に組み成され何れも共に拍手唱采を以て迎送せられたりしが散會は午后五時半、今左に其が演奏の順序を記さん  
〔曲目省略〕

〔おむ賀久〕第七十号、明治三十年七月、三八頁〕

明治三十年六月五日 学友会演奏會

明治三十年六月五日(土曜日)午後二時半

音楽學校 學友會 演奏 曲目

東京上野公園地音楽學校奏樂堂ニ於テ開會

第一部

一 唱歌

甲 二見が浦  
乙 去率撃たな

二 ピアノ (獨奏)

フリユースリッド

三 唱歌 (男聲四部合奏)

甲 飲酒歌  
乙 春の名殘

會 員 諸 氏 演奏	會 員 諸 氏 演奏	會 員 諸 氏 演奏	會 員 諸 氏 演奏
本 居 一 豐 穎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲
シ 野 十 郎 氏 作曲	シ 野 十 郎 氏 作曲	シ 野 十 郎 氏 作曲	シ 野 十 郎 氏 作曲
旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲
旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲
旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲	旗 野 十 郎 氏 作曲



丙 川のながれ

四 オルガン (獨奏)

フーガ

五 バイオリン及ピアノ (合奏)

ソナタ

六 唱歌

甲 朧 月

乙 日いづる國

第二部

七 唱歌 (四部合奏)

甲 妾薄命

乙 竹生島

八 バイオリン (獨奏)

アンプロンプチユー

九 唱歌

八嶋浦

十 ピアノ (獨奏)

大和 上眞 樹行 氏 指揮

神山末吉 氏 演奏

賛助員 鈴木幸子 氏 演奏

幸田延子 氏 演奏

會員 諸氏 演奏

本居豊穎 氏 演奏

中村秋香 氏 演奏

會員 諸氏 演奏

ユングスト 氏 演奏

エンゲルスベルク 氏 演奏

由比クメ 氏 演奏

賛助員 鈴木フク子 氏 演奏

リデーイング 氏 演奏

會員 諸氏 演奏

鳥居ベツ子 氏 演奏

名譽員 小山作之助 氏 指揮

會員 橋本正作 氏 演奏

甲 ヴァーゲンリードヒエン シューマン 氏 作曲

乙 ダンス、エスパギョール へー ル 氏 作曲

會員 諸氏 演奏

甲 戀の歌

乙 新版圖

三 バイオリン (合奏)

甲 アンプロンプチユー

乙 ガヴォット

會員 其他 諸氏 演奏

シユーベルト 氏 作曲

シ ャ 氏 作曲

ト 氏 作曲

會員 其他 諸氏 演奏

旗野上眞 氏 指揮

アドルフ、エンゼン 氏 作曲

マエヤーベール 氏 作曲

鳥居 氏 演奏

○音樂學校學友會演奏會 是は専ら音樂學校生徒諸氏に依て臨時催さるゝ所にして正に有望の演奏會にてあるが過五日は豫期の如く午後二時半より開會せられたり聴衆は無慮八百余人頗る盛會なりき今左に其の目次を「曲目省略」

『おむ賀久』第七十号、明治三十年六月、三七頁

○樂界の近時

輓近音樂の批評流行し來りて、新聞雜誌の上に品隲の文字を駢列する者多きは、或る意味に於て樂界の爲に慶賀すべきことならむ。吾等は今此等の月旦が一々肯綮に中りたるや否やを云々する者にあらず。趣味の不同、性情の差異は殊に音樂に於て殊に著るしきを知ればなり。吾等また此等の品隲が眞正の技巧的批評にあらずして單に『プログラム、ムウジツク』的嗜好の舞文なるや否やを答むる者にあらず。吾邦現今の樂界が嚴密なる批評を値するや否やを疑へばなり。たゞ衆人の耳目漸く音樂に及ばむとする

今日に於て、樂界そのものゝ形勢日々に非にして、年々衰頹の悲運に傾き來れるを見ては、斯道專攻のひとに對て聊か苦言なき能はず。

色彩陰影の趣を賞せむとして繪畫に對せず。諧調旋行の美を味はむとして音樂を聽かざる今日の人が、軍歌聲樂の外樂なき如く思考するは無理ならぬことなれど、樂界の當事者自らも未だ確固たる一定の見識なく、進て泰西の管絃樂を精究するの熱意に乏しきは何ぞや。苟くも美術の愛あるもの、何ぞ乾燥無味なる單音の軍歌を流布して、西樂の標本たらしむる如き拙を學ばむ。吾等は彼の蕪雜沒趣味なる歌詞を、強ひて西歐の樂譜に附會したる唱歌の表情なき演奏を耳にするより、寧ろ單調纖弱なれと往々嬌艷の態を具へ、悲愁の調を有する三絃邦樂の感深きを擇ばむとす。

去月音樂學校に演奏ありしこと二回、興味に於て技巧に於て青年會音樂會は遙か學友會にたち勝れり。眞をいへばヂットリツヒ氏去て後、未だ此校に著るしき樂會ありしを聞かざるなり。器樂の練習やいかに、表情の用意やいかに、唱歌のみはなほ稍舊態を存すれども、四聲ともに音量ある堪能の人を見ず。此校がまだ高等師範學校の附屬たらざる前に在りては才能ある良師の監督指揮の下に傾聽すべき演奏の會度々ありて、其都度京濱の士女、道を遠とせずして來集し、技巧の優劣を判斷しうべき一團の聽衆を形作りしが、今や其隻影をだに見る能はざるに至りぬ。音樂をして此の如き衰運に至らしめしは、素より斯道專攻の諸氏が責なりと雖も重に文部省が美術としての音樂に極めて冷淡なると、文字を解する人士の間に眞正の美術的趣味の欠乏したるとに歸すべし。

吾等はたゞ幸田氏其他二三の諸氏が巾幗の身にてありながら、かゝる逆境に位してなほ西樂の命脈を維持せらるゝ伎倆と意氣とに感服せずむばあらず。

今の時に當りて雅醇なる西樂を耳にせむと欲する者は、横濱へ行きて西人の樂會に臨むに非らずむは、虎門獎勵會に於て催さるゝ Amateur Theatricals の樂を聽くの外なし。近時諸雜誌の上に學友會同聲會の演奏を細評して、頗る周密なるを聞見すれど、吾等は今日の樂界を先年鹿鳴館帝國

『ホテル』等に於て代表されたるもの、又は音樂學校諸氏が舊日の技藝に比して確かに衰運に傾けるものと信すれば、未だ輕しく世の樂評家の説に同せざるなり。

(『帝國文學』第三卷第六号、明治三十年六月、九二〜九三頁)

### 明治三十年七月十日 卒業式

高等師範學校 附屬音樂學校 生徒卒業證書授與式及音樂演奏順序

明治三十年七月十日(土曜日)午後三時

ヨリ上野公園音樂學校ニ於テ施行

高等師範學校附屬 音樂學校生徒卒業式順序

- 一、主事上原六四郎報告
- 二、卒業證書授與
- 三、校長嘉納治五郎告辭
- 四、文部大臣演說
- 五、卒業生徒總代謝辭

### 第一 唱歌

甲 大塔の宮…………… {フリードリッヒ、シルヘル氏作曲  
文學博士 黒川眞頼氏作曲

乙 恵み…………… {ルードキツヒ、ヘルキツヒ氏作曲  
旗野 十 一郎 氏 作曲

### 第二 ピアノ (獨 奏)

甲 ウキーンゲンリードヘン…………… シューマン氏作曲  
專脩部卒業生 橋 本 正 作

乙 タランテレ……………ロエツシユホルヌ氏作曲  
第三 唱歌

甲 山中幽閑……………<sup>〔ボエニツケ〕</sup>文學博士 黒川眞頼氏作曲

乙 天津日嗣……………<sup>〔ライハルド〕</sup>大和田建樹氏作曲

第四 オルガン (二人連奏)

専脩部卒業生 神山末吉  
同 天谷秀

第五 唱歌  
ソナタ第一……………バハ氏作曲

奥野の狩倉……………<sup>〔ハイドン〕</sup>鳥居枕氏作曲

第六 バイオリン (合奏)

卒業生 其他 諸氏

甲 リード (オルガン伴奏) シューベルト氏作曲

乙 クライネ、ファンタジー、ユーベル、アイネ、  
ルシツシエン、メロヂー (ピアノ伴奏) <sup>ブルーメンステンゲル氏作曲</sup>

第七 唱歌

甲 愛しき我が友……………<sup>〔マイエルベール〕</sup>中村秋香氏作曲

乙 少年易老……………<sup>〔デユルネル〕</sup>旗野十郎氏作曲

Commencement Exercises

OF

The Academy of Music,  
UENO PARK.

3 P. M. Saturday, July 10th, Meiji 30 (1897).

Programme.

- I. Report by Mr. Uehara, Manager of the Academy.
- II. Presentation of Diplomas.
- III. Address to the Graduating Class by Mr. Kanō, Director of the Higher Normal School.
- IV. Address by His Excellency the Minister of State for Education.
- V. Response by the Representative of the Graduating Class.
  1. Chorus:
    - a. Der alte Barbarossa ……………Friedrich Silcher.  
("Ötō no Miya" by M. Kurokawa Bungaku-hakushi.)
    - b. Segen des Wortes Gottes ……………Ludwig Helwig.  
("Megumi" by Mr. Hatano.)
  2. Piano Solo:
    - a. Wiegenliedchen……………Schumann.
    - b. Tarantelle……………Loeschhorn.  
Mr. Hashimoto, Graduate.
  3. Chorus:
    - a. Waldstille ("Sanchyū Yūkan" by M. Kurokawa

Bungakuhakushi) ..... Boenicke.

b. Das Vaterland ("Amatsu Hitsuji" by Mr. Ōwada)

..... Reichardt.

4. Organ Duet:

Sonata I ..... Bach.

Messrs. Kōyama and Amaya, Graduates.

5. Chorus:

Seasons ("Okuno no Karikura" by Mr. Torii) .....

..... Haydn.

6. Violin:

a. Lied (with Organ)..... Schubert.

b. Kleine Fantasie über eine russischen Melodie.

(with Piano)..... Blumenstengel.

Graduates and others.

7. Chorus:

a. Robert der Teufel ..... Meyerbeer.

("Hashiki waga tomo" by Mr. Nakamura.)

b. Es ist das Glück ein plüchtig Ding..... Dürner.

("Shōnen oi yasushi" by Mr. Hatano.)

○音樂學校卒業式 高等師範學校附属音樂學校にては去月中試験完了本月十日を以て卒業證書授與式を擧げられたり、先づ主事上原六四郎氏は立ちて一學年内の本校學事報告をなされ、次に本校長嘉納治五郎氏一々卒業生を呼出して證書を授與し了りて告辭あり、次に文部大臣蜂須賀茂昭君の演説、卒業生徒總代橋本正作氏の謝辭朗讀あり右總べて終れば生徒一同の演奏數番あり、當日參列する者凡そ千餘人頗る盛大なりき

『おむ賀久』第七十一号、明治三十年七月、三五頁

明治三十年九月二十六日 同聲會臨時音樂會

明治三十年九月廿六日(日曜日)午後二時より

上野公園地内音樂學校奏樂堂ニ於テ開ク

同聲會臨時音樂會曲目

同 聲 會

第 一 部

一、洋琴獨奏.....伯爵シユルテルバハ夫人演奏

甲 エントレアクトオペラ .....ライネツケ氏作

マンフレッド .....ロビン氏作

乙 マンサンニラ.....

二、獨唱歌.....シドニーエツチモールス氏演奏

ホエアエバーユーウオーク.....ハンデル氏作

三、コーネット獨奏.....伯爵シユルテルバハ夫人演奏

ウアーナースパーテングソング.....ネセラ一氏作

四、獨唱短歌.....シドニーエツチモールス氏演奏

カムインツージェガーデン.....バルフェ氏作

マンデ.....

五、獨唱歌.....伯爵シユルテルバハ夫人演奏

甲 アーレルゼーレントーク.....ラツセン氏作

乙 オーシエネーツァイト.....ギヨツツエ氏作

第 二 部

- 六、獨唱歌(リシタチアブアンド エーア).....シドニーエツチモールス氏演奏  
 シルサビス .....バ ル フ ェ 氏 作
- 七、コーネット獨奏.....伯爵シユルテルバハ夫人演奏  
 オーザウサブライム  
 スキートイブニングスター .....ウ グ ネ ル 氏 作
- 八、獨唱歌(ローマンス).....シドニーエツチモールス氏演奏  
 ノンエホズー .....マ テ イ 氏 作
- 九、獨唱歌.....伯爵シユルテルバハ夫人演奏  
 クートアイ.....ト ス チ 氏 作
- 十、聯唱.....シドニーエツチモールス氏演奏  
 テービートウキニング氏演奏  
 ホキゼルンヨド .....バ ル フ ェ 氏 作

CONCERT  
 GIVEN BY  
 The Dōseikwai  
 ON  
 SUNDAY, THE 26TH SEPTEMBER, 1897,  
 IN THE  
 MUSIC HALL  
 OF  
 THE ACADEMY OF MUSIC,  
 Uyeno, Tokyo.  
 MR. SYDNEY H. MORSE  
 (Pupil of Mr. T. V. Twinning)  
 Kindly assisted  
 BY  
 COUNTESS VON SCHLUTTERBACH.

The concert commences at 2 P.M.

PART I.

1. Piano Solo. {a. "Entre Act opera Manfred"...*Reinecke.*  
 b. "Mansanilla" .....*Robin.*  
 COUNTESS VON SCHLUTTERBACH.
2. Song. "Where e'er you walk." .....*Handel.*  
 MR. SYDNEY H. MORSE.
3. Cornet Solo. "Werners Parting Song." .....*Nessler.*  
 COUNTESS VON SCHLUTTERBACH.
4. Cavatina. "Come into the garden Maude." .....*Balfe.*  
 MR. SYDNEY H. MORSE.
5. Song. {a. "Allerseelentag." .....*Lassen.*  
 b. "O Schöne Zeit, O Selge Zeit." .....*Gölze.*  
 COUNTESS VON SCHLUTTERBACH.

PART II.

6. Recit. and Air. "Si tu savais." .....*Balfe.*  
 MR. SYDNEY H. MORSE.
7. Cornet Solo. "O thou sublime, sweet evening star,"  
 from Tanhausser [Tannhäuser] .....*Wagner.*  
 COUNTESS VON SCHLUTTERBACH.
8. Romance. "Non è ver?" .....*Mattei.*  
 MR. SYDNEY H. MORSE.
9. Song. "Could I" .....*Tosti.*  
 COUNTESS VON SCHLUTTERBACH.
10. Duet. Excelsior.....*Balfe.*  
 MR. SYDNEY H. MORSE, MR. T.V. TWINNING.

▲同聲會臨時音樂會 は去月廿六日上野公園音樂學校奏樂堂に於て開かれぬ此會は英人トウキニング全モールの二氏及び獨乙國伯爵シユルテルバハ夫人の依頼により催されたものゝ由にて收支決算の上殘金は舉げて之を三氏に贈れりと記者は當日の演奏に就てあきたらぬ感なきにあらざりしかど同聲會が同業者を禮遇するの誠意を以て斯の斡旋の勞をとられたるを多しとなすものなり次手に當日演奏の種類並に番數を略記すれば下の如しピアノ獨奏一番男聲獨唱歌四番女聲獨唱歌二番コルネット獨奏二番男聲二人聯唱一番

(『おむ賀久』第七十三号、明治三十年十月、三八〜三九頁)

明治三十年十月二十六日 学友会演奏会

明治三十年十月二十六日(火曜日)午後一時半

音樂學校 學友會演奏曲目

東京上野公園地音樂學校奏樂堂ニ於テ開會

第一部

一 唱歌(單音)

甲 領巾磨嶺

シ 鳥居ヘル氏作曲  
ル 氏作曲

乙 火砲の雷(中等唱歌集ノ内)

名譽員 山田源一郎氏 指揮

二 ピアノ(聯彈)

高 神戶あちか子演奏  
木 戸あちか子演奏

ソ ナ タ

モ ツ ツ ア ル ト 氏作曲

三 祝祭日唱歌

甲 君が代

乙 勅語奉答

四 オルガン(聯奏)

ミニユエツト

五 唱歌(四部合唱)

乙 窓の秋風

丙 初雁

六 ヴァイオリン(合奏)

甲 フリユウリングス アプシード

乙 ガヴォツト

第二部

七 祝祭日唱歌

甲 一月一日

乙 紀元節

丙 天長節

古 林 廣 守 氏 作曲

勝 小 山 作 之 伯 氏 作曲

天 太 田 勘 七 秀 氏 演奏

安 高 瀧 石 野 廉 太 魏 郎 氏 演奏

安 高 瀧 石 野 廉 太 魏 郎 氏 演奏

中 フ 村 秋 ク ス 氏 作曲

鳥 ドクトル、フランツ、アイリツヒ 居 忱 氏 作曲

ペ ス テ ル 氏 作曲

シ ツ ト 氏 作曲

千 上 家 眞 尊 福 氏 作曲

高 伊 崎 修 正 風 氏 作曲

高 伊 崎 修 正 風 氏 作曲

黒 川 好 眞 頼 氏 作曲

奥 川 好 眞 義 氏 作曲

名譽員 上 眞 行 氏 指揮

八 ピアノ (獨 彈)

バード

瀧 廉太郎氏演奏  
ラインベルゲル氏作曲

九 唱歌

甲 羽衣

ハウプトマン氏作曲  
鳥居 忱氏作歌

乙 秋のみのり

大和田建樹氏作歌  
名譽員 上眞行氏指揮

十 ヴァイオリン、セロ、オルガン及ピアノ (合奏)

インテルメッツォ シンフォニコ マスカニ ー 氏作曲

十一 唱歌 (單 音)

甲 大鵬

キョクケ 忱氏作曲  
鳥居 忱氏作歌

乙 義勇奉公

リ 某 氏作曲  
名譽員 小山作之助氏指揮

音樂學校學友會

去廿七日上野音樂學校に於て開かれたり。忍が岡の秋色將に闌ならむとする折から。當日晴朗たる天氣に貴紳士女の參會せるもの甚多く實に盛會なりき。唱歌には鳥居忱氏の領巾摩嶺旗野十一郎氏の秋の野中村秋香氏の窓の秋風歌調當日の第一たり。又鳥居氏の初雁。羽衣は一段面白く「白良取りて去らんとす」のあたり甚妙なり。全氏の大鵬は歌詞曲調共に雄壯にして其名に負かず。失名氏の義勇奉公又面白かりき。大和田建樹氏の秋の祭は歌はとにかくに曲調に至りては吾人未其妙なる所を見る能はず。是吾人が音樂を知らざる爲ならん。全体より言へば只何となく讚美歌の如く聞えたるは猶飽かぬ心地せられたりされど樂器が樂器なれば自ら然るは又已むを得ざるか。(花城)

『新國學』第二卷第一号、明治三十年十月、六三頁

◎學友會臨時音樂演奏會の記

樂友稿

去ぬる廿六日上野公園地内音樂學校の奏樂堂に於て同校學友會の臨時音樂演奏會は催されぬ豫て辱知諸君の案内を受け居しことゝ待ちに待たる當日は定刻に先たつこと一時間早く同校に到りて懐しき諸先生親しき學友たちと打ち語らいつゝ時の移るを知らざりしが響き渡る號鐘に促されて會場に進めばさしも廣き奏樂堂もはや立錐の地を餘さざるまでに人もて満たされたれど幸にして適意の一席を得たれば予は其處に腰を据ゑぬ

聽て學友會の副會長上原六四郎君は演壇に登り黒七子五ツ紋の羽織袴かに仙臺平の袴凜々しく服裝如何にも立派に見受けたれど予は其フロックコートならざりしを憾む而して開會の主旨を演ぶる所口調の莊重なりしは嬉しかりしが其音勢弱かりしかば滿場に行き渡らざるべく思はれていと口惜しかりきそは兎も角も演述の大意は左の如し

本日斯く多數の紳士淑女の御臨席を辱ふしたるは實に本會の光榮なり而して今より舉行せんとする諸演奏は全國聯合教育會に出席されたる多數の教育家并に一般篤志家のために特に學校音樂或は唱歌に關して參考となるべきものゝみを選みたるなれば諸君希くば諸を諒せよ云々

君は演じ了りて壇を降るや演奏は直に豫定の順序によりて始められぬ第一單音唱歌 二曲山田氏の指揮なり甲、領巾摩嶺は鳥居氏の作歌にして能く曲趣に叶ひたるが如く指揮も亦其當を得て表情充分頗る床しく且つ優しく聞えたり原曲はシルツェル氏原歌はハイネー氏の作にてローレライと題する著名の歌曲なり、乙、火砲の雷は故人里見義氏の作歌と覺ゆ原曲は獨乙國の國歌デキ、ワツハト、アム、ライン即ち萊因河成兵歌と題しシネッケンブルグ氏作歌ウキルヘルム氏の作譜にして彼の普佛戰爭に於て普國大勝利の一半の戰功を擔ふものなり之を想ふて此日の出來榮に及ぼせば調子拍子に於てこそ間然する所なけれ全體の活氣乏しく聽衆をして隔靴搔痒の嘆あらしめたるか如し、されど唱歌者の多數が同校の豫科生たりしと聞きては予は寧ろ甲に於て勿論乙に就ても上出來なりしと稱するに憚

らざるなり

第二ピアノ聯彈 モツアルト氏作ソナタ、奏者は高木ちか神戸あやの二嬢なり無事平淡に奏し了りたるは愛でたけれど此曲は割合に長ければ表情に一段の注意を要するは勿論なるに其事を不充分にして聴衆を飽かしめたるが如き跡ありしは遺憾なりき特に兩者の間に彈奏上のスタイルを異にするが如き觀ありしは面白からず感じぬ

第三祝祭日唱歌 二曲共諸重音にて小山氏の指揮なり甲、君ケ代は云ふまでもなく皇國の國歌、邦人の常に之によりて愛國の心を鼓舞し忠君の念を興奮するものとして演者の注意は到れり盡くせりと云ふべく聴衆をして知らず識らず襟を正さしめたり、乙、勅語奉答の歌は祝祭日唱歌中最も西樂の眞體を得たるものなれば従つて一般の耳には稍入り難き節なきにあらず此故に機を得て其好模範を聴かんと欲するは我れ人の希望なりき今之を充分なる技倆を有する會員諸氏が作曲者の指揮の下に最も森嚴に最も正格に唱誦し了りたるなれば誰か謹聽して而して感奮せざるものあらん特に其諸重音なりしが故に單音に於て感じ、よりは遙に聞き優りせるぞ嬉しかりき

第四オルガン聯奏 曲はワグネル氏作のミニエツト奏者は天谷秀太田勘七の二氏なり其出來小瑕なきにあらねと大體に於ては佳良なりき而して演奏者の間に發相の合致を欠きたるが如き感ありしは兩者の素養に差ありて然りしならんか、序に一言すオルガンを二個相對せしむるは演奏者に多少の便宜を與ふること勿論なれども之を體裁宜しきには若かざるべし

第五四部合唱 甲乙丙の三曲其物は何れ劣らぬ尤物なれども歌者各個の聲量不釣合例へばソプラノとテノルとは小に、アルトとベースは大にして發相も亦充分なりしとは云ふべからず就中甲乙の二曲は恰も他人に唱はせられつゝあるか如く意氣更に投ぜず唯丙アイリッシ氏作曲鳥居氏作歌の初雁は歌者の肺腑に出で、聴者の肺腑に入りたるか如く至極面白く感じたり

第六ヴァイオリン合奏 甲、ペステル氏作フリウリングス、アプシードの高雅なる、乙、シット氏作ガボットの快活なる二者共に表情宜しきを得聴衆の心神を清爽ならしめたり

第七祝祭日唱歌 甲、一月一日、乙、紀元節、丙、天長節の三曲は第三演

奏と同じ教育家諸君の特に傾聽せる所のものなり何れも莊重に且謹嚴に奏されたるが中にも紀元節歌の如きは其發想緻密能く本唱歌の精神を發露して餘す所なかりき、指揮者上氏の着實温厚なる態度は夫たけにて早く既に聴衆の敬意を惹けり況や完全無缺の唱歌を聴く誰か感動せざるものあらむ

第八ピアノ獨彈 ラインベルグ氏作バラードは將來多望の公評ある瀧氏の演奏なり全體ピアノ獨奏は未だ邦人多數の好尚に適はざるが如く従つて奏者の骨の折るゝ割合に聴者に喜ばれざるが常なれど此演奏は然らずして彼れ少壯可憐の奏者が靜に演壇に上りて彈奏を始めしより終りまで能く聴者の耳を傾けしめたる技倆實に天晴末頼もしと言ふの外なし寄語す氏は聲樂に於ても亦器樂に於ても藝術家たるの資を具備せる者の如し望むらくは自重自愛益々其技を切磋し其藝を琢磨せよ苟にも小成に安じ小長に慢るは特に藝術界の大禁物たるを忘るなくんば幸なり

第九諸重音唱歌 上氏の指揮にて甲、羽衣はハウプトマン氏作曲鳥居氏作歌、乙、秋のみよりは作曲家未詳大和田氏の作歌にして一は幽玄一は爽快共に當日の聽物なりき特に乙に於ける首部の頓音スツックの輕妙にして且つ鮮明なる聽者をして思はず嬉しき笑を漏らさしめぬ、左れど予が傍に人ありて曰く「何だあの唾を吐くが如き歌はと」ア、何たるなさけなき評ぞや

第十ヴァイオリン合奏 多人數の男女が姿勢正しく居並びたるのみにてすら一の美觀なるに況してや各種樂器の合奏は更に一段の光彩なり曲はマスカニー氏の作インテルメツツオ、シンフォニーにして前部の優美にして高尚なる後部の輕妙にして快活なる特に此部には幸田幸子君のヴァイオリンと幸田延子君のピアノとを加へたれば滿場同感舉ナ我れを忘れて耳を傾けたり

第十一單音唱歌 二曲小山氏の指揮なり、甲、大鵬はキューケン氏作曲鳥居氏作歌、乙、義勇奉公はリスル氏作曲某氏作歌何れも壯大雄麗にして曲趣歌想能く和熟し指揮當を得て歌者の意氣之に叶ひたれば滿場を感動して樂堂も爲に崩れん計りの大喝采を博したり、因に記す甲は破邪曲と題し小山氏によりて疾く我邦に紹介されたる曲節にして乙は彼の有名なる佛國



の國歌ラ、マルセーユなり第一演奏の獨乙國歌と對照參考せしめん爲の出  
しものか注意の程ぞ有り難き

右終りて閉會の披露あり時に午後四時少し過ぎたる頃なりき出口は例に  
より甚だ混雜を極めたれば予は此間に於て數多の知人に告別し機を得て倉  
卒門を出で瀛車に乗じて歸途に就く、一本のシガー未だ吸ひ盡さずしては  
や月の宮なる蝸盧に入るを得たり乃禿筆を採りて所感を直寫すること此の  
如し

左に抄録するは本月五日「毎日新聞」に掲載したる擊磬子の洋樂漫言  
中の數節なり

◎隔つる十日音樂學校學友會の演奏會に參す聲樂九曲器樂六曲外に祝祭日  
唱歌五曲

◎「君か代」は畏くも我國歌なるに從來各地の小學校等にては其教授の法  
を誤り息の付き工合に謬れる箇所ありしが當日の演奏は之を矯正するの模  
範ともなりしならん

◎上氏の曲は坦たる海面俄に波瀾を捲き來るが如く奧氏の曲は花影濃かな  
る處鳥聲の啾々たるを聽くに似たりと評する人もありし

◎四重唱歌は音樂學校の特色なれど音樂會に會する者にして能く之を解  
し得る者あるや否鳥居氏作の「大鵬」歌曲何れも壯快一唱海國男子をし  
て踴躍せしむ「義勇奉公」は佛國大革命の氣焰を扶けたるマルセーユの  
曲なれば極めて勇壯なりき歌は某氏作とあれど小山氏の作にはあらざる  
か

◎因て惟ふマルセーユは勿論「大鵬」の原曲は佛人キユツケン氏の作に係  
れば雄麗の點に於ては獨逸曲に及ばざるも邦人の耳には寧ろ適へるが如し  
◎府下鏘々の教育家猶獨り此單音唱歌を激賞し高雅幽婉の曲調を有する四  
重音唱歌を顧みず他は問はずして類推すべきのみ

おむがく記者曰くキユケン氏は日耳曼人にて現世紀に於る同國最良  
の歌曲作者の一人なり

◎器樂の多數は賞揚を値する者あらずヴァイオリン合奏が二曲とも一絲の  
混亂なく巧妙に奏了せられたるは例も乍ら多とすべし

◎高木、神戸兩嬢はピアノに質の良きを示せるに過ぎず將來の研礎に待つ  
こと甚だ大なり

◎現時洋樂の巧手は殆皆巾幗者流の占むる所にしてピアノに於ては先輩に  
遠山、橘二婦人あり後進に内田嬢あり聲名優に六尺の丈夫を壓す而して今  
や瀧氏あり音樂家たる質を具へ技藝巧妙わづかに日本男子の面目を維ぐあ  
らんとす

◎奧氏を始め山田、納所の諸氏ピアノを以て鳴ると雖余は前途春秋に富め  
る瀧氏に向て特に希望を屬せざるを得ず

(『おむ賀久』第七十四号、明治三十年十一月、三一―三五頁)

▲學友會臨時音樂會 は豫報の如く去月廿六日音樂學校奏樂堂に於  
て開かれたり全國聯合教育會に出席されたる諸氏を始め東京埼玉滋  
賀一府二縣の師範學校生徒其他一般の紳士淑女を合せて一千二百餘  
名の來會者ありてさしにも廣き同堂も立錘の地を餘さゝりき其演奏  
に就ての批評は本誌評林欄に收めたり

(『おむ賀久』第七十四号、明治三十年十一月、三七頁)

### 明治三十年十一月二十日 同聲會秋季演奏會

明治三十年十一月二十日(土曜日)午後一時半

東京上野公園音樂學校奏樂堂ニ於テ開會

秋季音樂演奏會曲目

同聲會

### 第一部

一、唱 歌(單音)……………學友會々員諸氏演奏

- 甲、秋の夕……………ア 大和田 建樹 氏作曲
- 乙、對水感別……………ク 旗野十一郎 氏作曲
- 二、ヴァイオリン獨奏……………頼母木こま子 演奏
- コンサルト……………ベリ オ 氏作曲
- 三、唱 歌……………學友會々員諸氏演奏
- 甲、旭日照波……………ア イ ヒ ベ ル ヒ 氏作曲
- 乙、百舌鳥……………メ ン デ ル ソ ー ン 氏作曲
- 四、オルガン獨奏……………島崎赤太郎 氏演奏
- トツカタ エ フーガ……………ハ 氏作曲
- 五、獨唱歌(獨逸語)……………幸田のぶ子 演奏
- 甲、幻影……………シ ユ ー ベ ル ト 氏作曲
- 乙、若 尼……………全 氏作曲
- 六、ヴァイオリン合奏……………會員及學友會々員諸氏演奏
- 甲、リード オーネ ヴォルテ……………ハ ウ セ ル 氏作曲
- 乙、ロンディノー……………シヤルヴェンカ 氏作曲
- 第 二 部
- 七、唱 歌……………學友會々員諸氏演奏
- 甲、此 御 山……………モ ツ ツ ア ル ト 氏作曲
- 乙、浦島ノ子……………シ ュ ー マ ン 氏作曲
- 八、ヴァイオリン獨奏……………幸田こう子 演奏
- ファンタシア アツパシヨナタ……………ヴ ェ ウ タ ン 氏作曲

- 九、四部合唱……………會員及學友會々員諸氏演奏
- 甲、窓の秋風……………フ ッ ク ス 氏作曲
- 乙、君の恵……………ケ ル ビ ニ ー 氏作曲
- 十、ヴァイオリン合奏……………會員及學友會々員諸氏演奏
- プチット シンフォニー……………ダ ン ク ラ 氏作曲
- 十一、ピアノ獨奏……………橘 絲 重子 演奏
- ソナタ……………ビ ー ト ー ヴ ェ ン 氏作曲
- 十二、唱 歌……………學友會々員諸氏演奏
- 富士艦……………ビ ー ト ー ヴ ェ ン 氏作曲

會費

特別席	金 壹 圓
一等席	金 五 十 錢
二等席	金 貳 十 五 錢

Concert  
GIVEN BY  
THE DOSEIKWAI  
On Saturday, the 20th Nov., 1897,  
IN THE  
MUSIC HALL  
OF  
THE ACADEMY OF MUSIC,  
UYENO, TOKYO.  
THE CONCERT COMMENCES AT 1.30 P.M.  
ADMISSION ONE YEN.

PART I.

1. Chorus.
  - a. "WENN DIE SCHWALBEN HEIMWÄRTS ZIEHN." .....*F. Abt.*
  - b. "FAREWELL, YE STREAMS."...*Isaac Cooper.*  
The Students of the Academy.
2. Violin-Solo.
 

"CONCERT" a moll (1st Part.).....*Beriot.*  
Miss TANOMOGI.
3. Chorus.
  - a. "TO THEE, O COUNTRY!".....*Eichberg.*
  - b. "SONG OF THE SKYLARK." ...*Mendelssohn.*  
The Students of Academy.
4. Organ-Solo.
 

"TOCCATA ET FUGA." .....*Bach.*  
Mr. SHIMAZAKI.
5. Vocal-Solo.
 

"DER DOPPELGÄNGER." .....*Schubert.*  
"DIE JUNGE NONNE." ..... //  
Miss N. KŌDA.
6. Violins.
  - a. "LIED OHNE WORTE.".....*Hauser.*
  - b. "RONDINO." .....*Scharwenka.*  
The Members of the Dōseikwai and Students  
of the Academy.

PART II.

7. Chorus.

- a. "AVE VERUM." .....*Mozart.*
- b. "WASSERMANN." .....*Schumann.*  
The Students of the Academy.
8. Violin-Solo.
 

"FANTASIA APPASSIONATA."  
Introduction-Allegro and Andante Theme va-  
rie Largo Saltarella. .... *Vieuxtemps.*  
Miss Ko KŌDA.
9. Vocal-Quartett.
  - a. "DIE GUTE NACHT." .....*Fuchs.*
  - b. "DIE LIEBE." .....*Cherubini.*  
The Members of the Dōseikwai and the Stu-  
dents of the Academy.
10. Violin Duo.
 

"PETITES SYMPHONIE." .....*Dancla.*  
The Members of the Dōseikwai and the Stu-  
dents of the Academy.
11. Piano-Solo.
 

"SONATA." (Pathetique.).....*Beethoven.*  
Miss TACHIBANA.
12. Chorus with Piano.
 

"HALLELUJAH." (Mount of Olives.)... //  
The Students of the Academy.

◀同聲會秋季音樂演奏會 は豫報の如く去月廿日午後一時半より音  
樂學校奏樂堂に於て催せり例に依り名手の顔揃殊に今回は演奏音樂  
を精選されたれば何れも大喝采を拍せり〔曲目省略〕

(『おむ實久』第七十五号、明治三十年十二月、三三頁)

## ○音楽界

近時の樂界は實に往日の盛觀なく、一年の語草ともなる可き演奏會の類極めて罕なれば、茲に樂運の進歩を求むること難く、衰頹の姿を觀すること容易なる可し。而も國母大喪の期中なれば、上流社會に盛宴を張るものなく、萬控目勝なりければ、内外人聯合の樂會等到底望み得可からず、只横濱に於て數回の催ありしも、こは吾邦音樂會の潮流に大關係あるものにあらず、また記憶す可き程のものにもあざりし如し。翻て世人の音樂に對する態度を閱するに、多くは皆西樂の民心に適合せざるを論じて、之れが研修を奨勵せざる傾あり。然れども精細に此等人士の説を檢するに、大概音樂其物に對て同情を欠きたる傾向あり。本邦在來の樂は、少くとも數百年の流行を保持し來り、社會の趣味に投じたるものなれば、僅々十數年來の輸入樂と比して、民心に適合せること疑なし。されど刻下の疑問は在來の樂を以て吾人は満足す可きか否かに在らずや。邦樂をしてなほ充分の發達を遂けしめたらむには、終に遺憾なく明治新思潮の微韻を發揮することを得べきか否かに在らずや。論者未だ這般の疑問に思ひ當らずして、漫に西樂を斥く。深く味ふに足るの言に非らざるなり。明治の人民は凡へての宗教を信ぜざると同時に、又凡へての音樂に耳あらず。此際豈に西樂と邦樂とを論せんや。要は音律の美に聳ならざるに在り。

故に謂へらく音樂に關する合理の説を聞き得るの日は、雅醇なる趣味の有識者間に洽ねきの後にある可しと。

音樂學校は邦人の組織せる西樂團體の首位にありて、此校に於ける音樂の程度は、やがて本邦に於ける西樂の盛衰を示す者なり。西人の師一たび去てより此校の聲價頗る落ち、聽衆の種類も著るしく變じたるは、争ふ可からざる事實なれど、幸田氏等が熱心なる教授に依りて、器樂聲樂共に實は甚しき退歩なく、此校の『トラジチオン』を保持するは特筆すべき功績なり。昨冬年末に同聲會の演奏には幸田幸子氏のキオロン、橘氏の洋琴、幸田延子氏が獨唱ハイネの『ドッペルゲンゲル』の如きは、近年罕に聞く所の出來榮にして、頼母木氏のギオロン樂も亦確かに一段の進歩を示せり。誰れか音樂學校を無用の長物といふ。熱心なる少數の人士が逆境に立

ちて其所信を枉げず、而も雅健なる樂聲の傳燈を守るは感するに餘りある事共なり。

唱歌々詞に關する非難往々世に聞ゆ。吾人また論なきにあらねと他日の詳説に譲らむ。只思ふ、近時歌詞を疊復して、高音低聲相先後せしむるの風存りに行はるれど、少しくはざとらしき『マンナリズム』の嫌なきにあらず、將また國語の精神と乖戾するの譏なからずや。兎に角濫用を戒む可きなり。

戊戌の樂界は果して如何なるべき。吾等皆轉移の時代に在り。成功を急ぐ者は躓き、修養を積む者は克つ可し。西樂といはず、邦樂といはず、各其分に應じて未來の美術に貢獻する所あらむを望む可きなり。

(『帝國文學』第四卷第一号、明治三十一年一月、一四四―一四五頁)

### 明治三十年十二月二十四日 学友会演奏會

明治三十年十二月廿四日(金曜日)午後一時半

音樂學校 學友會 演奏 曲目

東京上野公園地音樂學校奏樂堂ニ於テ開會

#### 第一部

##### 一 ピアノ(獨彈)

ロンドー アラ トウルカ ブルクミュルレル氏 演奏

##### 二 唱歌(單音)

甲 昨日今日

乙 書生の旅

メンデルスゾーン氏 作曲  
中村秋香氏 作曲  
ケルネル氏 作曲  
鳥居 忱氏 作曲  
名譽員 山田源一郎氏 指揮

三 オルガン (獨奏)

第三クアルテット第一部

四 獨唱歌 (伊太利語)

アリア

五 ヴァイオリン (合奏)

ソナタ

六 唱歌

甲 海國

乙 忍が岡

第二部

七 ヴァイオリン、セロ及ピアノ (合奏)

ラ セレナタ

八 唱歌

甲 夢

乙 富士の卷狩

九 ピアノ (獨彈)

無言歌

十 四部合唱

石瀧高安	瀧高安	木達	木達	ちか	かう子	かう子	巍氏	巍氏	演奏
野廉	野廉	太	太	郎	郎	氏	氏	演奏	
神 戸	神 戸	あ	あ	や	や	子	子	演奏	
メンデルスゾーン氏	メンデルスゾーン氏	居	居	之助	之助	氏	氏	作曲	
鳥 居	鳥 居	小山	小山	之助	之助	氏	氏	指揮	
名譽員	名譽員	小山	小山	之助	之助	氏	氏	指揮	
佐 藤	佐 藤	誠	誠	實	實	氏	氏	作曲	
櫻 山	櫻 山	鎌	鎌	吾	吾	氏	氏	演奏	
益 廉	益 廉	太郎	太郎	郎	郎	氏	氏	演奏	
瀧 太郎	瀧 太郎	ガ	ガ	氏	氏			作曲	
旗 野	旗 野	十	十	郎	郎	氏	氏	作曲	
モ 村	モ 村	秋	秋	香	香	氏	氏	作曲	
中 村	中 村	小山	小山	之助	之助	氏	氏	指揮	
名譽員	名譽員	小山	小山	之助	之助	氏	氏	指揮	
マ 旗	マ 旗	野	野	十	十	郎	郎	氏	作曲
マ 旗	マ 旗	野	野	十	十	郎	郎	氏	作曲
ウオールファール氏	ウオールファール氏							作曲	
ウオールファール氏	ウオールファール氏							作曲	

甲 妾薄命

乙 竹生島

十一 ヴァイオリン (合奏)

甲 船 歌

乙 インデルシエンケ

十二 三 唱歌

四 條 暇

ス ポ ー ア 氏  
鳥 居 枕 氏  
名譽員 小山作之助氏 指揮

ユ ン グ ス ト 氏  
林 は る 子 氏  
エンゲルスベルグ氏  
由 比 桑子 氏  
作曲

ヘ ッ ス ネ ル 氏  
ヒ ル レ 氏  
作曲

▲學友會演奏會 音樂學校學友會は豫報の如く去月廿四日午後一時半より音樂學校奏樂堂に於て同會歳末音樂演奏會を催されたり時節柄聽衆は如何あらんと我人共に懸念せるに意外にも六百有餘名の來會者ありて頗る盛會なりき

〔於武賀久〕第八卷第一号、明治三十一年、四二頁〕